

# 中国のウイグル人への弾圧 状況についてレポート

(第二版)

在日ウイグル人一同

日本ウイグル協会

2019年 9月 27日

## 目次

第一章 概要	1
1. 【ウイグル人 300 万人以上が強制収容所に】	2
3. 【収監者及び関係者の証言】	3
4. 【収容所で不明の病気が蔓延】	4
5. 【収容所から死者が続出】	5
6. 【ウイグル人口密集地に火葬場】	5
7. 【家に残された子供は孤児園に】	5
8. 【アメリカ政府の見解】	6
第三章 ウイグル人社会各界のエリートも収容所に	11
1. 【教育界】	11
2. 【宗教界】	13
3. 【スポーツ界】	15
4. 【芸能界】	15
5. 【メディア関連】	16
6. 【経済界】	17
7. 【官僚・公安関係者】	18
8. 【地方の党・政府責任者】	19
第四章 “新疆のウイグル自治区”：中国高度な監視下の野外刑務所	20
1. 中国当局はウイグル地域を「野外刑務所」化	20
1.1 【漢民族の大量移住】	20
1.2 【7・5 ウルムチ虐殺】	20
1.3 【悪漢・陳全国】	21
1.4 【最先端の監視技術の実験場】	21
1.5 【政治的信頼度点数表】	21
1.6 【一般家庭に政府幹部が宿泊】	22
1.7 【スマートフォンにスパイウェアを強制装着】	23
1.8 【全車両に GPS を強制装着】	23
1.9 【ウイグル人のパスポートを没収】	23
1.10 【ウイグル人逮捕者数が全国の 21%】	23
2. 中国当局はウイグル住民から DNA など生体データを採集	23
2.1 【検診名目で DNA 採集】	23
2.2 【臓器狩り】	24
3. 海外在住のウイグル人（留学生、永住者、帰化者）も監視対象に	25
3.1 【在日ウイグル人の被害】	25
3.2 【海外にいるウイグル人の被害】	27
第五章 中国のウイグル言語への侵害状況	30
第六章 中国のウイグル文化・宗教への侵害状況	33

1. 【ウイグル文化への侵害】 .....	33
2. 【宗教への侵害】 .....	35
第七章 拘束されたウイグル人エリートたちのリスト .....	39

## 【緊急声明】

### 2人のウイグル人著名学者の命が危ない！

日本留学経験があり東京理科大学で理学博士号を取得していた、新疆大学大学学長のタシポラット・ティップ(Dr. Tashpolat Tiyp, 61 歳)氏と新疆医科大学元学長のハリムラット・グプル(Dr. Halmurat Ghopur, 59 歳)氏が近く、中国当局によって**処刑**される可能性が高いとして、国際人権NGOアムネスティなど複数の人権団体が今年9月中旬から死刑執行停止を求める活動を展開している。学者らネットワークの Scholar at Risk Network 及び海外中国学者らは全世界に声援を呼びかけるとともに、中国政府・習近平と新疆ウイグル自治区当局宛に死刑執行停止を求める公開状を発表した。

この二人は2017年に、「両面人」として強制収容所に入れられていたが、2018年9月に2年間の執行猶予付きの「死刑」判決が言い渡された。罪名はなんと「地位を利用して反政府活動を行い、分裂主義を実現しようとした」であった。信じられない！研究一筋でやってきて、中国全国で優秀研究者となった人、ウイグル政府・共産党から信頼の上選別され、約10年間大学学長を務めた人に押し付けられた「罪」なのだ。到底受け入れられない！

我々在日ウイグル人は、中国共産党・政府、新疆ウイグル自治区政府に、ティップ博士とグプル博士の死刑執行を直ちに中止し、釈放すること、そして、法的手続きなく、300万人以上のウイグル人を無差別に強制収容していること直ちに止め、収容所を閉鎖するよう求める。

我々在日ウイグル人は、また日本政府にもこの件に直ちに介入し、両博士処刑の中止、無条件の釈放を確保するよう中国政府対し外交的圧力と働きかけることを求める。

命が危ない二人：

1. タシポラット・ティップ (Dr. Tashpolat Tiyp, 塔西甫拉提·特依拜, 60), 新疆大学大学学長

ティップ教授は2017年5月に、学会参加のためドイツへ向かう途中、北京空港で当局に拘束され、強制収容所に入れられ、2018年9月に2年間の執行猶予付きの「死刑」判決が言い渡された。

ティップ氏は、新疆大学を卒業後、1992年に東京理科大学で理学博士号を取得。1996年から新疆大学の副学長、2010年から2017年まで同大学学長、党副書記と務めていた。研究プロジェクトの成果から中国教育省に賞を与えられたことも多数あり、新疆では著名な学者だった。



2. ハリムラット・グプル (Dr. Halmurat Ghopur, 哈木拉提·吾甫尔, 59) 新疆医科大学の元学長

グプル氏は2017年に新疆医科大学の学長から自治区食品医薬品監督庁長ポストに移動させられた後間もなく、「両面人」として拘束されていたが、2018年9月に2年間の執行猶予付きの「死刑」判決が言い渡された。「ウイグルの分裂独立思想を持った、ウイグルでイスラム国を作ろうとした」との罪名だった。

彼は中国伝統医療を学ぶ上海中医薬大学を卒業し、1993年ロシアのサンクトペテルブルク医科大学で博士号を取得。中国全国最優秀研究者の1人に選ばれるなど、中国全土でも名を知られる有名教授だった。医科大学で彼はウイグル伝統



医学の継承にも力を注ぎ、民族医学教育ではウイグル語による授業をずっと続けてきた。ハリムラット氏は、1998年から新疆医科大学の副学長、2008年から2017年まで同大学学長、党副書記と務めていた。

## 中国で拘束されたウイグル人エリートたち(2017~2018年)

(1)



新疆大学学長・博士  
タシブラット・ティップ



新疆医科大学元学長・博士  
ハリムラット・オブル



ウイグル自治区教育厅長  
サタル・サウト



カシュガル大学学長  
エルキン・オマル



新疆師範大学元学長  
アザット・ソルタン



新疆大学副学長  
デリムラット・ゴプル



ウイグル自治区政府秘書長  
アリムジャン・メムテミン



自治区教育出版社元社長  
アブラザク・サイム



新疆師範大学教授  
アブドカデル・ジャラリデン



自治区教育出版社編集者  
ヤリクン・ロズ



新疆大学教授  
ライラ・ダウト



新疆大学元学長  
ワリ・バラット



自治区人民出版社社長  
アブラヒマン・エイ



新疆日報社副社長  
イリハム・ワリ



新疆芸術大学教授・監督  
ケユム・ムハマト



新疆大学教授  
アリスラン・アブラ

上の写真付きリストは、強制収容所に収監されている東トルキスタン各地域にある名門大学の学長、新聞社元社長、大学教授らエリートの一例。詳細のリストは第7章を参照。

## 第一章 概要

古代より東トルキスタン（“現新疆ウイグル自治区”）は、ヨーロッパと東アジアをつなぐ要衝であるだけでなく、石炭、石油、天然ガス等地下資源の豊富な地域だ。1949年に中国人民解放軍が東トルキスタンに侵攻し、「新疆ウイグル自治区」として共産党の支配下に組み込んだ。それ以来、中国当局によるウイグル人への差別的、抑圧的政策がずっと続いてきた。

だが、3年前から事態が急変し、ウイグル情勢は著しく悪化した。2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を発揮した陳全国が“新疆ウイグル自治区”の書記に就任してから、独裁的な長期政権を築いた習近平中国共産党総書記をバックにし、東トルキスタン歴史の中で最も酷く露骨な人権弾圧、同化・民族浄化政策を展開し始めた。習近平政権が推進する現代版シルクロード経済圏構想「一带一路」の戦略的要衝とみられる東トルキスタンに、完全な監視・封じ込めた社会を作り上げ、ウイグル人の言語、文化、宗教を完全に絶滅させるような民族浄化政策を実施している。

陳全国が就任して以来、前任の張春賢が推進した「双語教育」（事実上の漢語教育）をさらに露骨化し、小学校から大学まで全ての教育機関でウイグル語の使用を禁止した。ウイグル語で出版された教科書、小説、歴史を反映する本、イスラム教に関連する書籍を焼却した。

陳は、1年も経たない間に、9万人を越す治安関係ポストを募集し、ウイグル自治区の警察の人員を2015年の6倍に増員し、ウイグル地域において「監視社会」の完成を手掛けた。2017年第1四半期（1～3月）のみで、ウイグル自治区で10億ドル（約1130億円）以上に相当するセキュリティー関連の投資をし（カシュガル市だけで今年3月、5100万ドル（約55億円）以上を投じた）、ウイグル全地域に人工知能（AI）の顔認証技術が搭載された監視カメラを設置した。中国政府はウイグル自治区を最先端の監視技術を試行する実験場にした。

至る所に500m間隔で監視塔付きの交番（検問所）を設け、24時間体制で検問・監視を始めた。全てのウイグル人から旅券が没収された。スマートフォンにスパイウェア・アプリのインストールを強要した。GPSの車両搭載が義務付けられた。ウイグル、カザフなど現地住民の政治信頼度を評価するため、「個人情報採集表、点数表」を配布し、全住民に点数をつけ、身分証明書IDと連結させた。この点数で拘束対象者を決め、「再教育センター」に収監した。12歳から65歳までの住民を対象にDNAや血液のサンプル、指紋、虹彩、血液型などの生体データを集めた。

最も酷いのは、2017年初頭から、「再教育センター」、「教育転化学校」、「技能研修センター」、「職業技能教育訓練センター」という名前の「強制収容所」の建設を急ピッチで進め、何も罪のない300万人のウイグル人（ウイグル人口の約30%）をこれらの収容所に監禁し、共産党の政治思想、宗教転化（非イスラム化）、民族アイデンティティを破壊するための「洗脳教育」を行っている。ウイグル人社会に何らかの影響を持つ著名人、教育界のエリートたち、医者、著名なイスラム学者、人気のスポーツ選手、音楽家、経済界で成功した経営者（銀行に100万円以上貯金のある人）らも続々と強制収容所に入れられた。両親が拘束され家に残された子供たちが孤児園に送られた。

そして、各収容所から続々死者が出始めた。遺体は家族に返さずに内密に「処分」された。カシュガル空港では「人体器官運送通路」、「移植器官航空運送保障プロセス」標識の専用通路やスペースが用意され、臓器売買のため国家ぐるみで「臓器狩り」をしていることが明らかになった。

21世紀の今この瞬間も、中国政府が行っている「ナチス強制収容所の再現」（ジェノサイド）とも言える人権弾圧、民族浄化に対し、アメリカ政府が中国政府を非難し、収容所の閉鎖、全収監者の即時釈放を呼び掛けるほか、9月11日アメリカ上院で「ウイグル人権政策法案」を通した。

しかし、日本政府の沈黙がまだ続いている。納税者である我々在日のウイグル人は、日本政府と国民に対し以下を呼びかけたい。**沈黙しないでほしい。中国政府を非難し、収容所の閉鎖、全収監者の即時釈放に働きかけてほしい。**これは単に人権弾圧の問題ではなく、「人道に対する罪」、世界平和への挑発であり、ウイグル民族存亡の危機とみてほしい。

## 第二章 「強制収容所（再教育センター）」の現実

2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を発揮した陳全国が新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、独裁的な長期政権を築いた習近平中国共産党総書記をバックにし、露骨な人権弾圧・民族浄化政策を展開し始めた。

### 1. 【ウイグル人 300 万人以上が強制収容所に】

東トルキスタン（“新疆ウイグル自治区”）において、2017年初頭以来、「再教育センター」、「教育転化学校」、「技能研修センター」という名前の「強制収容所」の建設が急ピッチで進められると同時に、300万人以上のウイグル人（ウイグル人口の約30%）がこの収容所に収監されていることが最近続々と明らかになった。米国防総省アジア・太平洋安全保障担当のランドール・シュライバー（Randall Schriver）次官補は今年5月の記者会見で、同自治区の収容施設を「強制収容所」と呼び、推計「300万人」が拘束されていると非難した『参考資料37』。東トルキスタンの人口は2300万人（2014年統計）で、ウイグル人口は48.5%、約1130万人だとすると、ウイグル人口の約30%の人が「再教育」されているのだ『参考資料1-2』。報道によると、2017年春以来強制収容所に収監された人で釈放された人がいないという『参考資料3』。



何も罪がなく、「要注意人物点数表（第四章を参照）」でマイナス点数が高い人が収容所送りの対象者となっている。例えば、（1）ウイグル人である（2）イスラムの礼拝をしている（3）宗教知識がある（4）（当局が要注意とする中東など）26カ国に行ったことがある（5）外国に留学した子供がいる……といった項目に該当すれば要注意人物として対象者となる『参考資料4』。また、ウイグル人社会に何らかの影響を持つ著名人、教育界のエリートたち、イスラム学者、人気スポーツ選手、音楽家、経済界で成功した裕福な経営者らも「民族情緒（民族的気持ち）がある」、「両面人（裏表がある人物）」として収

監対象者となっているのである（第三章を参照）。収容所の状況は海外メディア、研究者らによって次々と報道されるようになった『参考資料5-10』。

Bitter Winter が中国共産党内の情報筋によりつかんだ情報によると、ウイグル族の大規模な拘束を隠すため、中国の当局は新疆ウイグル自治区の混雑した刑務所および強制収容所から陝西省、内モンゴル自治区、甘粛省、黒竜江省を始めとする省に大勢の被拘留者を移送している。その数は 50 万人に及ぶという『参考資料 54-55』。

## 2. 【強制収容所の位置・規模が明らかに】

東トルキスタン（89 県あり）の各県に少なくとも 5 つの再教育センターがあるとされ、科学者の衛星写真やグーグルマップからの調査で既に収容所位置、その規模が明らかになった『参考資料11-13, 44, 47』。AFP 通信社のまとめによると、**新疆ウイグル自治区内に明らかになったこうした施設が少なくとも 181 か所存在する**。『参考資料 44』

それぞれ一か所に数千人から数万人が収監されている。例えば、2017 年 4 月にカシュガル疏附県（コナ・シェヘル）で当時建設予定の収容所（新疆疏附县法制教育转化学校、位置座標 39° 21'33.1"N 75° 51'50.0"E）の入札募集によると、収容所は 3.5 万平方メートルの広さで、政府出資 1.4 億元（約 29 億円）であった『参考資料14』。同様にカシュガル・疏勒県巴仁郷（イエニシェヘル・バリン郷、1990 年に有名な「バリン郷事件」発生した場所）座標 39° 21'29.2"N 76° 03'04.1"E に位置する収容所《疏勒县法制教育转化学校》（上・写真 1）は一年前に何もなかった畑に新しく建てられた収容所で、1 号館～5 号館の 4 階建「教学棟」（70.5m×17.5m）と管理棟があり、それぞれ面積 4943.11 m<sup>2</sup>である『参考資料15』。グーグルマップからも上記座標コードから確認できる。



写真1. カシュガル疏勒県（イエニシェヘル）強制収容所上空写真（《疏勒县法制教育转化学校》）

また、アルトゥシュ（クズルス・キルギス自治州）政府ホームページで、2018 年 3 月 21 日掲示された、「アルトゥシュ市職業技能教育研修サービスセンター建設項目の環境への影響報告表に対する審査意見」（关于《阿图什市职业技能教育培训服务中心建设项目环境影响报告表》的审批意见）『参考資料16』によると、39° 38'28.0"N 75° 59'46.0"E に位置する該当教育センターは、9.6 万 m<sup>2</sup>規模（東京ドーム 2 個分の広さ）、政府投資 3 億 5000 万元（約 60 億円）で、収監者部屋（7.6 万 m<sup>2</sup>）、管理用部屋（1.1 万 m<sup>2</sup>）、武装警察用部屋（8.5 千 m<sup>2</sup>）、有刺鉄線のフェンス付き障壁 1292m、医療室 1200 m<sup>2</sup>、8460 人分の食事を作る厨房などから構成されている。名前は技能教育研修センターだが、武装警察、監視塔完備した、**8000 人が収容できる強制収容所**である『参考資料17』（写真 2）。

最近、さらに規模が大きい収容施設の実態が明らかになった。ウルムチ市達坂城区に位置する「ウルムチ職業技能教育研修センター」（座標：43° 23'01.8"N 88° 17'18.2"E）は占有面積 52 万 m<sup>2</sup>（東京ドームの約 12 倍）、建築面積 13 万 m<sup>2</sup>であった。この収容施設には収容ビル（監獄）が 8 棟あるほか、





写真2. アルトゥシュ市強制収容所上空写真  
(《阿图什市职业技能教育培训服务中心》)

留置センタービル1棟、警察備勤ビルが8棟、警察総合ビル1棟、病院棟、レストラン棟、物資倉庫棟、武装警察宿舎2棟、監視塔などがある。推測では約1万人の収監者を収容できるという『参考資料18』(写真3)。そのほか、カマイ市に地上5メートル、地下40メートルの地下収容所が建設されたことが明らかになった。この秘密の地下収容所には少なくとも1万人を収容する予定だという『参考資料19』。

これらの収容施設は、新たな政府投資で建設され、調査で分かったものだが、収監者数があまりにも多いため、入りきれない人たちは、臨時収容所として使っている学校(廃止されたウイグル小中学校)、党校(共産党学校)、専門学校、病院、体育館、倉庫、まだ特定できていない地下施設など様々な施設に収監され、すし詰め状態にあるという。また、ベッドが足りないため、昼班/夜班交代制で、教育される人と寝る人を入れ替えているという。

AFPは2018年10月24日、中国政府の公開文書を基に収容施設の運営実態に迫ったベン・ドゥーリー記者の記事を北京発で配信した。AFPのまとめによると、新疆ウイグル自治区内にはこうした施設が少なくとも181か所存在する『参考資料44』。

センターの建設や運営には多大な費用がかかることから、2017年には自治区全体で司法当局の支出が爆発的に増えている。AFPの試算によれば、当初予算の少なくとも577%増に相当する30億元(約480億円)近くが投じられたもようだ。

中国政府はこれらの施設を「職業訓練センター」と言い張っている。しかし、その嘘が次の証拠で覆されたのである。自治区南西部ホータン(Hotan)地区のある地方政府でこうした施設を管轄する部署は、今年、数度にわたって次のような物品を調達していた。警棒2768本、電気棒550本、手錠1367個、



写真3. 「ウラムチ職業技能教育訓練センター」の上空写真  
(《乌鲁木齐市职业技能教育培训中心》)

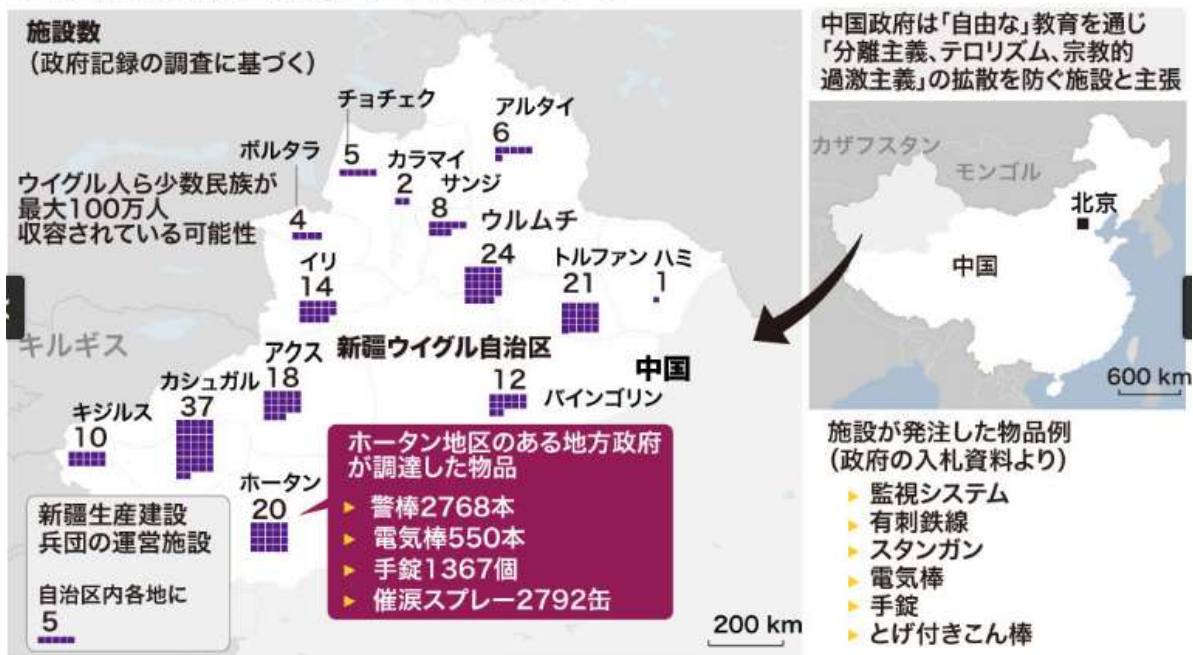
それに催涙スプレー2792缶。いずれも、教育と関係があるようにはとても思えない品目だ。

AFP がこうした入札や予算関係の文書、業務報告書など、公に入手できる中国の政府文書 1500 点以上を検証したところ、施設は学校どころか刑務所のように運営されていることが分かったのである。

上図. AFP 通信が中国公開文書に基づきまとめた資料

## 新疆の収容施設

中国新疆ウイグル自治区の「職業技能教育訓練センター」に国際社会から厳しい目が向けられている。人権団体は政治的な「再教育キャンプ」だと批判している



### 3. 【収監者及び関係者の証言】

収容所で8か月収監された経験があり、カザフスタン政府の働きかけで釈放されたカザフスタン国籍のウメル・ベカリ (Omir Bekali) 氏の証言『参考資料20-22』によれば、彼はピチャンにある両親を訪ねて行ったとき、身柄を拘束され、危険分子として「カラマイ市技術研修センター」という収容所に送られた。この収容所には当時約 1000 人が収容され、8 割がウイグル人、2 割がカザフ人だった。環境条件が大変悪く、狭い一室に 20 人以上がすし詰め状態で寝泊まりしていた。食事も、トイレも同室で済ませたという。毎日早朝から夜遅くまで中国語でプロパガンダ歌謡を歌わせ、共産党の政治思想、宗教転化 (非イスラム化)、民族としてのアイデンティティを破壊するための「洗脳教育」が行われ、その日のテストで不合格なった者や少しでも不満を表した人は厳しく罰せられる (食事与えず、手足が絞られた状態でヘッドホンより大音量を流し睡眠できないようにする) という。イスラム教徒の禁物である酒や豚肉を強要されているとの証言もある『参考資料23, 45』。



また、中国の強制収容所で働いていて、カザフスタンへ不法入国した罪で逮捕されたサイラグル・サウトバイ (Sayragul Sauytbay, 41 歳) が法廷で、中国が存在を否定してきた「再教育キャンプ」について証言した『参考資料24』。証言によると、彼女が働いた「キャンプには 2500 人ほどの収監者がいて、

そこは一般に政治キャンプと呼ばれるが、実際は山区の刑務所だった」という。カザフスタン政府は中国からの送還要求を押し切って、サイラグルを無罪釈放し、カザフスタンにいる家族の元に返した『参考資料25』。

被拘束者の1人だったウイグル人のミリグル・トゥルスン (Mihrigul Tursun, 29歳) 氏は、2015年から2017年にかけて3度投獄された際に拷問を受けたことを証言した『参考資料25』。2015年、家族に会うために中国を訪れたトゥルスン氏はすぐに拘束され、幼い子どもたちと引き離された。3ヶ月後に一時釈放された時、三つ子の1人の不自然死を目にし、他の2人は健康に問題を抱えていた。子どもたちは手術を受けたとトゥルスン氏は話す。トゥルスン氏が繰り返し3度も拘束され、それぞれ異なる収容所・刑務所に収監された。



トゥルスン氏は3度目の拘束をされた時、60名の女性たちとともに、窮屈で息のつまるような刑務所の監房に3ヶ月間収容された。そこでは睡眠は交代でしか取れず、監視カメラの前でトイレを使用することを余儀なくされ、中国共産党を称える歌を歌わなければならない。トゥルスン氏や他の被収容者たちには、服用すると気絶する錠剤や、女性によっては出血したり生理がなくなったりするような白い液体など、得体の知れない薬が強制的に投与された（\*その他の報道でも明らかになったが、収容所に入られた全ての女性は強制的に「不妊化」されているのである）。同じ監房にいた9名の女性が、3ヶ月の間に亡くなったという。

トゥルスン氏はある日、部屋に連れて行かれ、高い椅子に座らされた。両方の手足は固定された。「当局的職員たちはヘルメットのようなものを私の頭の上に乗せました。感電させられるたびに全身が激しく震え、血管に痛みを覚えました」とトゥルスン氏が語った。「それ以外のことは覚えていません。口から白い泡が出てきて、意識が薄れていきました。耳に入ってきた最後の言葉は、おまえがウイグル人であることが罪なのだ、というものでした」。

トゥルスン氏は子供がエジプト国籍であったため、ようやく釈放された。トゥルスン氏は子どもたちを連れてエジプトに行き、その後アメリカ政府の保護を受け、2018年9月に渡米した。

その他、在日留学生の証言として、2018年7月19日NHK-BS1テレビチャンネルで放送した国際報道番組「中国でウイグル族大量拘束 今何が？」で、そして、2018年11月28日、2019年7月12日のNHK特集で詳細に報じられた『参考資料26, 45-46』（在日ウイグル人の被害状況の詳細は第四章を参照）。

#### 4. 【収容所で不明の病気が蔓延】

ウイグル自治区政府衛生局の業績とした記事（ホームページで発表されその後削除された）によると、ホータン地区1市、7県の収容所で不明の「伝染病が蔓延」したため、2017年7月9日から8月3日の間に自治区の調査チームを派遣し調査に行った結果、「肺結核」だったということで、558人を病院に

搬送・隔離したという。しかし、これらの患者が本当に肺結核なのか、その後どうなったのかは一切明らかにされておらず、政府による隠ぺい・情報封鎖が行われたことが明らかである『参考資料27』。

#### 5. 【収容所から死者が続出】

これまでの報道で各収容所から続々死者が出ていて『参考資料28-29, 53』、一部の老人遺体以外は家族に返されず、家族に会わせることもなく、新しく設けられた一般人が入ることのできない遺体処理・安置所『参考資料30』で焼却処分されていると思われる（ウイグル人の民族習慣では亡くなった人に葬儀を行い、故人を専用墓地に埋葬する）。

臓器売買のため、臓器が抜き取られた痕跡のある遺体もあったという情報がある。そして、それを裏付ける写真もあった（第4章 2.2 参照）。空港では「人体器官運送通路」、「人体寄付、移植器官航空運送保障プロセス」標識の専用通路やスペースが用意され、国家ぐるみで人の臓器を強盗していることを示す徹底的証拠である。この内容は The Epoch Times でも報じられた『参考資料31』。

在日ウイグル人一人の証言によると、彼女の弟（24歳）が昨年5月に収容所で亡くなり、遺体を家族に返さずに当局の監視下で直接処理されたそうだ。死因は何なのか、遺体はどこに、どういう方法で処理されたかなどの情報は一切聞かされていない。電話に答えた親族は「党のケアの元で葬送した、さようなら」と言い他に何も言えなかったという。

#### 6. 【ウイグル人口密集地に火葬場】

そして、もっとも不思議なことは、中国当局はイスラム教を信仰するウイグル人が95%以上を占める県、町、村に急ピッチで数多くの火葬場建設を進めている。そして、一般人月給の数倍の賃金で人員（もちろん漢民族）を募集している『参考資料33』。

今後ウイグル人の死体を火葬するつもりなのかと 思うだけでも鳥肌が立つほど恐ろしい！ 中国政府は一体何をしようとしているのか！ これらの事象は「ナチス強制収容所の再現」（ジェノサイド）の予兆とも言えるだろう。

#### 7. 【家に残された子供は孤児園に】

また、深刻な問題になっているのは、両親が拘束され、家に残された大勢の幼い子供たちが孤児園に入れられ、ウイグルアイデンティティーを無くす漢化教育が行われている。「両親は政治的な問題を抱えているため、子供は通常の子供と一緒に学校に通うことが禁じられている」という『参考資料34』。2017年10月、南新疆のある孤児院の職員はインタビューに応じ次のように語っている。「両親が再教育施設収監のために孤児となった生後6カ月から12歳までのウイグル人の子ども達を預かっているが、突如として増えた子ども達であふれかえり、仔牛の群れを小屋に入れて飼育しているような状態だ」「福祉が追いつかず、週に一度だけ肉を使った食事を出せ、それ以外は基本的におかゆだけだ」「施設は厳重に制限され、外部者が施設内に入れない」。

BBC は公表されている文書と在外家族への取材数十件から、新疆の子どもたちに何が起きているのかを示す、これまでで最も総合的な証拠を入手したと2019年7月5日報じた。中国当局は子どもたちを家族、信仰、言葉から意図的に引き離しているという。記録によると、1つの町だけで子ども400人以上の親が、1人ではなく2人とも収容所か刑務所に強制収容されていた。示したデータによると、中国全国で幼稚園入園率8%に対し、新疆では82%、ウイグル密集地域では148%だったという。ウイグル族が最も集中して暮らしている新疆の南部だけでも、当局は幼稚園の建設と改良に12億ドル（約1294億円）を費やしている『参考資料48』。

若い妻のみ残された家には、漢民族の男性が世話役で寝泊まりしているとの情報もある。

## 8. 【アメリカ政府の見解】

アメリカのペンス副大統領は2018年7月26日、首都ワシントンで講演し「中国政府は、数十万人、もしくは数百万人の規模でイスラム教徒のウイグル族を再教育施設という場所に収容している。宗教の信仰と文化的な帰属意識を失わせようとしている」と述べて非難したことを、NHKが昨年7月27日朝のTV番組で伝えた『参考資料35』。



さらに、7月26日ウイグルにおける収容所問題に関して、アメリカ議会で初めてとなる公聴会が開かれた。昨年に大統領選に候補者となった上院議員・議長のルビオ（Marco Rubio）氏がこの公聴会を招集した。家族20人以上が拘束され、行方不明となったことをアメリカ ラジオ・フリー・アジアのアナウンサー・記者であるグリチェヒラ・ホジャ（Gulchehre Hoja, アメリカ国籍のウイグル人）が証言した。また、アメリカ駐国連経済社会理事会大使のケリー・カーリー（Kelley Currie）氏が、「2017年4月から、習近平指導下の中国当局がウイグル人に対する弾圧程度は「人を驚かす、ショッキングなものだ」、文化大革命がエスカレートした時期とも比べるできないほど酷いのだ。男子髭の禁止、女性の公衆場でのベール着用禁止、そして短いズボンを着ること、喫煙、お酒を飲むこと、豚肉を食べることを拒むことを犯罪と見なし、政府系公式テレビを見ることを拒むことさえ罪に問われている」と述べた『参考資料36』。



2019年7月18日に行われた第2回宗教の自由に関する閣僚会議において、アメリカのペンス副大統領は次のように述べた。「新疆ウイグル自治区ではウイグル人を含む100万人以上の中国人イスラム教

徒が 24 時間体制で洗脳に耐え、強制収容所に入れられています。キャンプの生存者たちは、彼らの体験を、ウイグル文化を抑圧し、イスラム信仰を根絶しようとする中国政府の意図的な試みだ』『参考資料 38-』。また、同会議で、アメリカのポンペイオ国務長官も、「中国は現代において最悪とも言える人権危機がまかり通っている国で、間違いなく世紀の汚点だ」と指摘した『参考資料 39』。

ポンペイオ国務長官は 8 月 6 日、中西部カンザス州の大学で行った演説でこの問題に言及し、「中国は 100 万人のウイグル族を強制収容所で洗脳し、文化や信仰を捨てさせようとしている。中国は教育のためだと主張し、人権を保護していると言うが、真実からかけ離れている」と非難した。そのうえで、「アメリカはこの問題を解決し、ウイグル族を自由にするため、全力を尽くしたい」と述べ、今年（2019 年 9 月）、ニューヨークで開かれる国連総会の場でこの問題を提起し、各国と連携して中国に解決を促す考えを示した『参考資料 40』。

アメリカ国務省報道官からも強力な非難があった『参考資料 25』。



2019 年 9 月 11 日に、米国上院はマルコ・ルビオ (Marco Rubio) 上院議員とボブ・メネンデス (Bob Menendez) 上院議員によって提出された超党派法案である「2019 年のウイグル人権政策法」が可決された『参考資料 49-50』。ルビオ上院議員は次のように述べた。「100 万人以上のウイグル人の『政治的再教育』収容所への収容を含む、中国政府と共産党による、新疆における組織的かつ悪質な人権侵害および人道に対する犯罪に対し、米国が、中国に責任を負わせることは、長い間延期されました。」「今日、上院がこの重要な法案を可決するために行動を起こしたことを嬉しく思います」。

彼はまた、下院がこの法案を速やかに可決し、大統領の机に送るよう促した。

ナチス式経験しているとも言える「強制収容所」は、ウイグル民族数千年の歴史の中で経験している最も酷く、ウイグル人の言語、文化のみならず、民族が絶滅する危機に直面している重大な事件であり、中国共産党・習近平政権による国家犯罪である。

2019 年 7 月 10 日、イギリスや日本など国連人権理事会加盟の 22 カ国は、中国・新疆（東トルキスタン）におけるウイグル族の大規模な勾留と収容施設で行われている中国政府の残虐な行為を非難する書簡をジュネーブの国連人権理事会に提出した『参考資料 51』。

その上で中国政府に対し、国連や独立した国際組織の査察団へ、「新疆への実質的なアクセスを認める」よう強く促している。

署名した国は、イギリスと日本のほか、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、アイスランド、アイルランド、ラトヴィア、リトアニア、ルクセンブルク、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、スペイン、スウェーデン、ス

イスの 22 か国。

しかし、7月12日、ロシアや北朝鮮、シリア、ミャンマーなど合計 37 カ国の人権を著しく侵害する国々、そして、中国と友好的な関係を育む国々及び中国と取引する国々が、人権に関する実在しない中国の所謂「偉業」を称え、ウイグル族やその他のムスリムを収容施設に勾留する行為は「分離主義」と「テロ」と戦う上で必要であったと指摘する、恥ずべき、不適切な書簡を同じく人権理事会に提出した『参考資料 52』。署名したのは、「ロシア、パキスタン、サウジアラビア、エジプト、キューバ、アルジェリア、アラブ首長国連邦、カタル、ナイジェリア、アンゴラ、トーゴ、タジキスタン、フィリピン、ベラルーシ、ジンバブエ、オマーン、ベネズエラ、シリア、ミャンマー、そして、北朝鮮、シリア、ベネズエラなど、人権の侵害をし続け恥ずべき枢軸国及びその他の複数の国々」。

一部の国々は、この書簡に署名することで、恥ずべき国々としてこの先何年も記憶されることになるかと恐らく理解しているだろう。

### 『参考資料』

1. China: Massive Numbers of Uyghurs & Other Ethnic Minorities Forced into Re-education Programs, Chinese Human Rights Defenders, August 3, 2018  
<https://www.nchr.org/2018/08/china-massive-numbers-of-uyghurs-other-ethnic-minorities-forced-into-re-education-programs/>
2. Survey: Three Million, Mostly Uyghurs, in Some Form of Political 'Re-Education' in Xinjiang  
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/millions-08032018142025.html>
3. 'No Releases' of Thousands Held For Years in Xinjiang Township Political 'Re-education Camps'  
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/township-08062018145657.html>
4. 水谷尚子, 「ウイグル絶望収容所の収監者数は 89 万人以上」, Newsweeks 日本版 2018.03.13  
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/03/89-3.php>
5. What Really Happens in China's 'Re-education' Camps, The New York Times, May 15, 2018  
<https://www.nytimes.com/2018/05/15/opinion/china-re-education-camps.html>
6. Simon Denyer, Former inmates of China's Muslim 'reeducation' camps tell of brainwashing, torture, The Washington Post, May. 17, 2018  
[https://www.washingtonpost.com/world/asia\\_pacific/former-inmates-of-chinas-muslim-re-education-camps-tell-of-brainwashing-torture/2018/05/16/32b330e8-5850-11e8-8b92-45fdd7aaef3c\\_story.html?utm\\_term=.95541c3fd6ad](https://www.washingtonpost.com/world/asia_pacific/former-inmates-of-chinas-muslim-re-education-camps-tell-of-brainwashing-torture/2018/05/16/32b330e8-5850-11e8-8b92-45fdd7aaef3c_story.html?utm_term=.95541c3fd6ad)
7. Adrian Zenz, New Evidence for China's Political Re-Education Campaign in Xinjiang, May 15, 2018  
<https://jamestown.org/program/evidence-for-chinas-political-re-education-campaign-in-xinjiang/>
8. Adrian Zenz, "Thoroughly Reforming them Toward a Healthy Heart Attitude" - China's Political Re-Education Campaign in Xinjiang, May 15, 2018  
[https://www.academia.edu/36638456/\\_Thoroughly\\_Reforming\\_them\\_Toward\\_a\\_Healthy\\_Heart\\_Attitude\\_-\\_Chinas\\_Political\\_Re-Education\\_Campaign\\_in\\_Xinjiang](https://www.academia.edu/36638456/_Thoroughly_Reforming_them_Toward_a_Healthy_Heart_Attitude_-_Chinas_Political_Re-Education_Campaign_in_Xinjiang)
9. Tara Francis Chan, China is secretly imprisoning close to 1 million people — but they've left 2 big pieces of evidence behind, May. 30, 2018  
<http://www.businessinsider.com/how-many-people-are-imprisoned-in-xinjiang-china-government-documents-2018-5>
10. Xinjiang Political 'Re-Education Camps' Treat Uyghurs 'Infected by Religious Extremism': CCP Youth League, RFA, Aug 8, 2018.  
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/infected-08082018173807.html>
11. Shawn Zhang, List of Re-education Camps in Xinjiang 新疆再教育集中营列表, May 20, 2018.  
<https://medium.com/@shawnwzhang/list-of-re-education-camps-in-xinjiang-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%88%97%E8%A1%A8-99720372419c>
12. Shawn Zhang, Detention Camp Construction is Booming in Xinjiang, Jun 19, 2018.  
<https://medium.com/@shawnwzhang/detention-camp-construction-is-booming-in-xinjiang-a2525044c6b1>
13. Shawn Zhang, Xinjiang's re-education system is a hybrid of Gulag and Indian Residential School, Jun 13, 2018  
<https://medium.com/@shawnwzhang/latest-re-education-campaign-in-karshgar-xinjiang-167668ad5729>
14. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang "Re-education Camp" No.3 新疆再教育集中营卫星图 3, May 20, 2018.  
<https://medium.com/@shawnwzhang/satellite-imagery-of-xinjiang-re-education-camp-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%8D%AB%E6%98%9F%E5%9B%BE-96691b1a0d62>
15. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang "Re-education Camp" No.1 新疆再教育集中营卫星图 1, May 20, 2018.  
<https://medium.com/@shawnwzhang/satellite-imagery-of-xinjiang-re-education-camp->

- [3-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%8D%AB%E6%98%9F%E5%9B%BE-3-bae61bef8028](https://www.xjats.gov.cn/P/C/1736.htm)
16. 阿图什市人民政府 <http://www.xjats.gov.cn/> の web.archive.org バックアップサイト  
<https://web.archive.org/web/20180706221430/http://www.xjats.gov.cn/P/C/1736.htm>
  17. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang “Re-education Camp” No.23 新疆再教育集中营卫星图 23, May 20, 2018.  
<https://medium.com/@shawnwzhang/satellite-imagery-of-xinjiang-re-education-camp-1-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%8D%AB%E6%98%9F%E5%9B%BE-1-eea378e8ed8b>
  18. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang “Re-education Camp” No.29 新疆再教育集中营卫星图 29 (Largest Re-education Camp?). 26 Jul, 2018.  
<https://medium.com/@shawnwzhang/largest-re-education-camp-d7d6ce15e273>
  19. XINJIANG AUTHORITIES BUILD MASSIVE UNDERGROUND PRISON, Aug 20, 2018  
<https://bitterwinter.org/massive-underground-prison/>
  20. Omir Bekali talks about the psychological stress he endured in a Chinese internment camp  
<http://www.abc.net.au/news/2018-05-18/omir-bekali/9773366>  
<http://www.businessinsider.com/what-is-life-like-in-xinjiang-reeducation-camps-china-2018-5>
  21. 水谷尚子, 「ウイグル「絶望」収容所——中国共産党のウイグル人大量収監が始まった」Newsweeks 日本版 2018.02.18;  
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/02/post-9547.php>
  22. 水谷尚子, 「イスラーム教徒に豚とアルコールを強要する中国・ウイグル「絶望」収容所」、Newsweeks 日本版 2018.05.18; <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/05/post-10194.php>
  23. Video: ‘This person will simply disappear’: Chinese secretive ‘reeducation camps’ in spotlight at Kazakh trial  
<https://www.hongkongfp.com/2018/07/17/person-will-simply-disappear-chinese-secretive-reeducation-camps-spotlight-kazakh-trial/>
  24. Kazakh court frees woman who fled Chinese re-education camp  
<https://www.theguardian.com/world/2018/aug/01/kazakh-court-frees-woman-who-fled-chinese-re-education-camp>
  25. NHK-BS1 国際報道「中国でウイグル族大量拘束 今何が？」2018.07.19  
<http://www6.nhk.or.jp/kokusaihoudou/bs22/feature/index.html?i=180719>
  26. Radio Free Asia, 「ホータンの収容所で 558 人が肺の伝染病が明らかになった」  
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/siyaset/uyghurda-lager-05282018133938.html?encoding=latin>
  27. Uyghur Teenager Dies in Custody at Political Re-Education Camp, Radio Free Asia news, 2018.03.14  
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/teenager-03142018154926.html>
  28. Uyghur Father of Two Dies After Falling Ill in Xinjiang Re-Education Camp, Radio Free Asia news, 2018.04.11  
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/father-04122018153525.html>
  29. 遺体安置所 Radio Free Asia news, 2018.06.25  
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/medeniyet-tarix/jeset-bir-terep-qilish-06252018164051.html?searchterm%3Auf8%3Austing=depne&encoding=latin>
  30. 「中国では人命はとても安い、臓器のほうが高値だ」元医師の告白  
<http://www.epochtimes.jp/2017/10/28953.html>
  31. 中国当局がウイグル地域各地に急ピッチで火葬場建設  
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06122018145148.html?encoding=latin>
  32. ウルムチ沙依巴克区 火葬場保安員の公募  
<https://m.wlmq.com/0010155185.html>
  33. 「ニュースウィーク日本版」ウェブ編集部, 中国共産党、ウイグル「絶望収容所」の実態  
<https://toyokeizai.net/articles/-/212978?page=4>
  34. 「トランプ政権 中国がウイグル族を不当に収容と非難」, NHK New Web, 2018 年 7 月 27 日  
[https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180727/k10011551041000.html?utm\\_int=all\\_side\\_ranking-social\\_002](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180727/k10011551041000.html?utm_int=all_side_ranking-social_002)
  35. Hearing on Surveillance, Suppression, and Mass Detention: Xinjiang’s Human Rights Crisis  
<https://www.youtube.com/watch?v=rE8Ve2nxPds&feature=youtu.be&t=1623>
  36. 米政権「ウイグル、数十万人を拘束」中国当局を批判、毎日新聞, 2018 年 7 月 28 日  
<https://mainichi.jp/articles/20180729/k00/00m/030/079000c>
  37. China putting minority Muslims in 'concentration camps,' U.S. says. Reuters, World News May 4, 2019.  
<https://www.reuters.com/article/us-usa-china-concentrationcamps/china-putting-minority-muslims-in-concentration-camps-u-s-says-idUSKCN1S925K>
  38. 【米国：ホワイトハウス】第 2 回宗教の自由に関する閣僚会議におけるペンス副大統領の発言, 海外ニュース翻訳情報局, 2019 年 7 月 21 日.  
<https://www.newshonyaku.com/12398/>
  39. 中国のウイグル人巡る対応は「世紀の汚点」 = 米務長官, Reuters, 2019 年 7 月 19 日.  
<https://jp.reuters.com/article/usa-religion-china-idJPKCN1UD2F1>
  40. 中国のウイグル族問題を国連総会で提起へ 米務長官, NHK, 2019 年 9 月 7 日



41. <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190907/k10012067801000.html>  
「殺してくれと懇願した」ウイグル族女性が語る、中国の収容所での拷問・虐待. NewSphere, Dec 4 2018.  
<https://newsphere.jp/world-report/20181204-1/2/>
42. 米国の首都で「ウイグル危機」を訴える. Bitter Winter, 2019年6月19日.  
<https://jp.bitterwinter.org/bringing-the-uyghur-crisis-to-the-heart-of-the-united-states/>
43. Uyghur refugee tells of death and fear inside China's Xinjiang camps. CNN, Jan 18, 2019.  
<https://edition.cnn.com/2019/01/18/asia/uyghur-china-detention-center-intl/index.html>
44. 中国・ウイグル強制収容所の内側—催涙ガス、レーザー銃、教本【再掲】、AFP  
<https://www.afpbb.com/articles/-/3204613>
45. 衝撃証言 ウイグル族“不当収容”の実態, NHK 国際報道, 2018年11月28日  
<https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2018/11/1128.html>
46. 絶望から生まれた勇気 ～在日ウイグルの訴え～  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190712/k10011990981000.html>
47. Adrian Zenz, China's Political Re-Education Campaign in Xinjiang. Central Asian Survey, Volume 38, 2019 - Issue 1: p102-128.  
[http://www.etaa.org.au/wp-content/uploads/2018/06/Thoroughly\\_Reforming\\_them\\_Toward\\_a\\_Heal.pdf](http://www.etaa.org.au/wp-content/uploads/2018/06/Thoroughly_Reforming_them_Toward_a_Heal.pdf)
48. 「多数の子どもを家族から引き離し、寄宿校に隔離 中国・ウイグル自治区」, BBC News, 2019年07月5日  
<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-48880066>
49. Rubio, Menendez Applaud Senate Passage of the Uyghur Human Rights Policy Act  
<https://www.rubio.senate.gov/public/index.cfm/2019/9/rubio-menendez-applaud-senate-passage-of-the-uyghur-human-rights-policy-act>
50. H.R.649 - Uyghur Human Rights Policy Act of 2019  
<https://www.congress.gov/bill/116th-congress/house-bill/649>
51. 中国は「ウイグル族の拘束やめよ」 22カ国が共同書簡で非難、BBC News Japan, 2019年7月11日  
<https://www.bbc.com/japanese/48946124>
52. 「恥ずべき国々：人権の敵、新疆の収容所を支持」、Bitter Winter, 2019年7月15日  
<https://jp.bitterwinter.org/human-rights-foes-support-chinas-xinjiang-camps/>
53. ウイグル収容所で多数の死者か＝「文化消し、中国人に」と絶望感  
<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019071400171&g=int>
54. 大規模な強制収容を隠すため、移送されたウイグル族、Bitter Winter, 2018年12月20日  
<https://jp.bitterwinter.org/uyghurs-moved-to-hide-mass-detentions/>
55. 甘粛省の刑務所にも大勢のウイグル族を拘束, Bitter Winter, 2019年4月5日  
<https://jp.bitterwinter.org/thousands-of-uyghurs-detained-in-a-gansu-prison/>

## 第三章 ウイグル人社会各界のエリートも収容所に

2017 年から大々的に大に行われるようになった思想改造目的の強制収容施設での不当な拘束が今も続いている。そしてウイグル人社会に何らかの影響を持つ著名人、教育界のエリートたち、医師、著名なイスラム学者、人気のスポーツ選手、音楽家、経済界で成功した経営者が続々と強制収容所に入れられている。中国はこの収容所のことを「職業訓練施設、学校」と言い張っているが、以下に例として名前を挙げる人たちは、高度の知識人であり、職業訓練なんかは必要ないはずである。

以下には、代表的な例を挙げる。(ここで挙げた例はメディアなどで公開された情報のみであって、氷山の一角にすぎない。)

### 1. 【教育界】

#### 1) タシポラット・ティップ (Tashpolat Tiyp, 塔西甫拉提·特依拜, 60), 新疆大学大学学長

ティップ教授は 2017 年 5 月に、学会参加のためドイツへ向かう途中、北京空港で当局に拘束され、強制収容所に入れられ、2018 年 9 月に 2 年間の執行猶予付きの「死刑」判決が言い渡された。

ティップ氏は、新疆大学大学を卒業後、1992 年に東京理科大学大学で理学博士号を取得。1996 年から新疆大学大学の副学長、2010 年から 2017 年まで同大学学長、党副書記と務めていた。研究プロジェクトの成果から中国教育省に賞を与えられたことも多数あり、新疆では著名な学者だった。

『参考資料』

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/university-president-02202018173959.html>



#### 2) ハリムラット・グプル (Halmurat Ghopur, 哈木拉提·吾甫尔, 59) 新疆医科大学の元学長

グプル氏は 2017 年に新疆医科大学の学長から自治区食品医薬品監督庁長ポストに移動させられた後間もなく、「両面人」として拘束されていたが、2018 年 9 月に 2 年間の執行猶予付きの「死刑」判決が言い渡された。「ウイグルの分裂独立思想を持った、ウイグルでイスラム国を作ろうとした」との罪名だった。

彼は中国伝統医療を学ぶ上海中医薬大学を卒業し、1993 年ロシアのサンクトペテルブルク医科大学で博士号を取得。中国全国最優秀研究者の 1 人に選ばれるなど、中国全土でも名を知られる有名教授だった。医科大学で彼はウイグル伝統医学の継承にも力を注ぎ、民族医学教育ではウイグル語による授業をずっと続けてきた。ハリムラット氏は、1998 年から新疆医科大学の副学長、2008 年から 2017 年まで同大学学長、党副書記と務めていた。

『参考資料』 <https://www.rfa.org/english/news/uyghur/arrest-01122018152937.html>



上記両大学ホームページの歴任学長リスト『以下のリンクを参照』から、新疆大学元学長タシポラット氏と新疆医科大学の元学長ハリムラット氏の名前が消されている。これは中国が歴史・事実を平気で消すまたは変えてしまうことの証拠でもある。

新疆大学歴任学長 <http://www.xju.edu.cn/xxgk/lrxz.htm>

新疆医科大学歴任学長 <http://www.xjmu.org/xqzl/lrld.htm>

2018年9月26日と10月4日、次々とラジオ・フリー・アジアから驚く内容の報道があった。なんと、新疆医科大学元学長のハリムラット・グプル氏と新疆大学大学学長タシポラット・ティップに2年間の執行猶予付きの「死刑」判決が言い渡されたと、ウイグル現地からの情報として伝えた。「地位を利用して反政府活動を行い、分裂主義を実現しようとした」との罪名であった。この二人は2018年2月ごろに、「両面人」として強制収容所に入れられていた。

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/siyaset/xamurat-ghopur-09262018151802.html?encoding=latin>

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/qanun/tashpolat-teyip-10042018165313.html?encoding=latin>

現在、この二人は処刑の危機に直面していて、複数の人権団体が今年9月中旬から死刑執行停止を求める活動を展開している。

「ウイグル族の著名な学者への死刑判決と新疆「学肅反」運動」、Bitter Winter, 2019年9月21日

<https://jp.bitterwinter.org/ccps-campaign-to-purge-disloyal-uyghur-scholars/>

3) 自治区教育庁の庁長 サッタール・サウット (Sattar Sawut)

2017年、「重大な規律違反」で拘束され、強制収容施設に送られた。サッタール氏が任期中に編纂したウイグル語教材は、自治区内で教科書として使われていた。『参考資料』

[http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c\\_129473389.htm](http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm)

2018年9月26日ラジオ・フリー・アジアから驚く内容の報道があった。なんと、サッタール・サウットに「死刑」判決と2年間の執行猶予が言い渡されたと、ウイグル現地からの情報として伝えた。

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/siyaset/radiyomizgha-mektup-09242018150730.html?encoding=latin>



4) 自治区政府党委員会元秘書官、教育庁副長官、新疆新聞社 社長を務めたアリムジャン・メメットイミン (Alimjan Memtimin) (59) 『参考資料』

[http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c\\_129473389.htm](http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm)



5) ウイグル自治区社会科学院副院長や新疆教育出版社 社長アブドゥラザク・サイム (Aburazaq Siyim) (61)

『参考資料』

[http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c\\_129473389.htm](http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm)



上記三名の方はウイグル語の教科書の編集、出版にかかわる人物であった。そのウイグル語教材は、自治区内で教科書として使われていたが、それらが「文文学、歴史、道徳分野には、民族分離を煽る内容が含まれており、それを12年間も現場で使ったため大勢大の若者が深刻な洗脳を受けた」と糾弾され、ほぼ同時期に収容施設に送られたのである。『参考資料』

[http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c\\_129473389.htm](http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm)

<http://news.sohu.com/20170209/n480334060.shtml>

6) 新疆師範大学教授 アブドゥカディリ・ジャラリディン (Abduqadir Jalalidin)

知名度の高いウイグル文学者で新疆師範大学教授でもあるアブドゥカディリ・ジャラリディン (54) は今年 1 月にウルムチ市国家安全局に拘束された。アブドゥカディリはカシュガル師範学院を卒業後、ウイグル文学者の道歩んだ。彼は 00 年代初頭、石川県に数カ月滞在したことがあり、その体験を記した本の一部がウイグル語教科書に引用された。ウルムチ市の中で最大級と言われている収容施設に収監されているとされる。『参考資料』



<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/scholar-04252018140407.html>

7) 新疆大学教授 ラヒレ・ダウット (Rahile Dawut)

ウイグル文化研究の先駆者で新疆大学人類学研究所教授、博士であるラヒレ・ダウット (52 歳) が、2017 年 12 月北京で消息不明となったとニューヨークタイムズ電子版が 8 月 10 日に報道した。ダウット氏の家族は、黙っていることで再教育施設、拘留施設から解放されないことが分かったため、ダウット氏が消えてから 8 か月後の今、これを話すことを決めたと言ったという。ダウット教授は、日本人研究者の菅原 純と共著で中央ユーラシアにおけるイスラム聖堂に関する研究をテーマにした、「マザール、MAZAR」という本を出版していた。『参考資料』



Star Scholar Disappears as Crackdown Engulfs Western China, The New York Times

<https://www.nytimes.com/2018/08/10/world/asia/china-xinjiang-rahile-dawut.html>

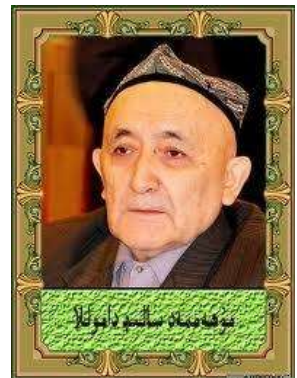
Mazar: Studies on Islamic Sacred Sites in Central Eurasia, Sugawara Jun, Rahile Dawut, 2016

<https://www.amazon.co.jp/Mazar-Studies-Islamic-Central-Eurasia/dp/4904575512>

2. 【宗教界】

1) 著名なウイグル人イスラム学者 ムハンマド・サリヒ (Muhammad Salih)

著名なウイグル人イスラム学者で、『クルアーン』のウイグル語訳者として名を知られる 82 歳のムハンマド・サリヒ師が 17 年 12 月中旬、中国新疆ウイグル自治区の区都ウルムチの自宅から突然何者かに連行された。サリヒ師は中国共産党の強制収容施設に収監され、約 40 日後の 18 年 1 月 24 日に死亡した。『参考資料』

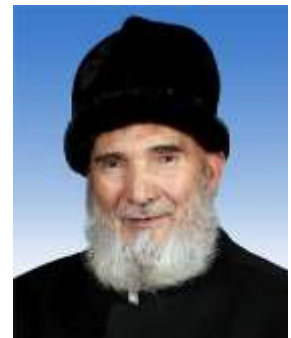


<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/scholar-death-01292018180427.html>

2) 全国イスラム協会副主席、ウイグル自治区政協の副主席、ホータンイスラム協会主席、ホータンモスクのイマム アブドレティフ・アブドレヒム・ダモッラ (Abdulletip Abdurehim Damollam)

2017 年に 3 年刑で刑務所に入れられた。『参考資料』

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/din/abduletip-abdurehim-damollam-tutqun-05102017142750.html?encoding=latin>



3) カシュガル・トックズタシモスクのイمام アプリミット・ダモッラ (Ablimit Damollam)

アプリミット・ダモッラは自宅から突然連行され、収容所に収監された 2 カ月後の昨年 6 月に死亡した。

アプリミット・ダモッラ (81) は、80 年代に新疆ウイグル自治区で初めて寄宿舎付きの私立学校「カシュガル語学・技術専門学校」を開校したベテラン教育家でもある。

アプリミットは学校にウイグル語で英語、中国語、アラビア語、トルコ語を教えるクラスと、看護師・歯科医師を育成するコースを設置。全日制だけでなく夜間制の学生も受け入れ、経済的に恵まれない人も教育を受けられるようにした。付属病院も開設し貧しい者への医療費免除など慈善事業を行って人々の支持を集めたが、2000 年頃に中国当局が施設を強制的に封鎖していた。アメリカの短波ラジオ放送「ラジオ・フリー・アジア (RFA)」の報道によると、アプリミットは身柄拘束から 2 カ月後の昨年 6 月に死亡した。死因は知らされず、葬儀は当局の厳重な監視のもと、弟子たち、周りの住民の参加が許されず家族だけで行われたという。『参考資料』



<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/ablimit-damollam-wapat-boldi-06162017193458.html?encoding=latin>

4) ケリヤ県政協副主席、県メインモスクのイمام イミン・ダモッラ (Imin Damollam)

2017 年 5 月に 18 年の実刑判決で刑務所に監禁された。罪は 2016 のメッカへのハッジ (大巡礼) で「ウイグル分裂意識のある」人にハッジ代行費を渡したことであった。『参考資料』

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/qanun/uyghur-kadir-05212018160053.html?encoding=latin>



5) ニルカ (Nilqa) 県 イスラム学者 アブドレシット・ハジム (Abdureshit Hajim) (65)

アブドレシット氏は強制収容所に監禁されてから 9 か月間たった今年の 6 月 5 日に、収容所内で死亡し、頭部分が白い布で覆われた遺体が家族に返された。しかし、家族が遺体の頭・体部分を見ることも許されず、死因が不明のまま、警察の厳重な監視下で埋葬されていたことが RFA の取材で明らかになった。

参考資料：

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/abdureshit-seley-hajining-olumi-06082018234941.html?encoding=latin>



6) ホータン スラーム学者 アブドルエヘッド・メフスム (Abdulahet Mexsum) (87)

2017 年 11 月拘束され、収容施設で死亡していたことが今年 5 月にイスタンブールに住んでいる親戚の調べで分かった。アブドルエヘッド・メフスムは 7 人の弟子にイスラム知識を教授したことが拘束の原因だったという。

『参考資料』：

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/abdulahet-mexsum-ghayibane-namaz-06012018225457.html?encoding=latin>



### 3. 【スポーツ界】

人気のサッカー選手エリパン・ヘズムジャン (Erpan Hezimjan)  
人気のあったウイグル人サッカー選手エリパン・ヘズムジャンの失踪は、漢人の熱烈なファンたちがソーシャルメディア上で告発して発覚した。今年19歳の彼は15歳から中国のサッカーチームでプレーをし、失踪前は中国スーパーリーグの江蘇省チームに所属していた。

今年2月末頃に里帰りしたが、3月に南京で行われた試合に姿がなかったことを心配する書き込みが相次いだ。RFAは4月、彼の地元ドルビリジン県へ電話取材をし、同県警察署職員の証言で2月頃に強制収容所に送られたことが判明した。

所属チームの主戦力として1~2月にかけて、スペインやアラブ首長国連邦で試合に出ていたが、「外国に行ったこと」を理由に、県中心部から約10キロ離れたトゥルグン村の強制収容施設に送られたという。そこにはウイグル人約1000人が収容されている。

『参考資料』:

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/erpan-hezimjan-terbiyeleshte-04162018153838.html?encoding=latin>

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/footballer-04132018162312.html>

<https://www.hongkongfp.com/2018/07/07/rising-star-footballer-among-million-uyghurs-sent-chinese-re-education-camps/>



### 4. 【芸能界】

#### 1) 民謡歌手 アブドゥレヒム・ヘイト (Abdurehim Heyit)

ウイグル人の幅広い年齢層に愛されている民謡歌手でドゥツタル奏者(ドゥツタル王)のアブドゥレヒム・ヘイト (56) は、2017年4月に公安警察に連行されてから行方不明になり、その後収容所で死亡したとの情報があった。これに関連し、トルコ外務省は2018年2月9日、報道官声明を発表し、中国は組織的なウイグル族の同化政策を行っているとして人道上の「大きな恥だ」と批判していた。しかし、中国国営メディアは11日に、ヘイト氏が「健康状態は良い」と話す映像を公開、声明に反論したのである。中国当局による映像公開を受け、フィンランド在住のウイグル人活動家ムラット・ハリ・ウイグル (Murat Harri Uyghur) さんは12日、#MeTooUyghurを用いたキャンペーンを立ち上げた。ハリさんはAFPに対し、「中国当局はヘイト氏が生きている証拠だとして映像を公開した。ではわれわれは知りたい、数百万人のウイグル人たちはどこにいるのか」と語っていた。



アブドゥレヒムは北京の中央民族歌舞団や新疆ウイグル自治区歌舞団で活躍し、数多くのアルバムも発表した。ウイグルの民族文化に誇りを持ち、前を向いて生きていこうと呼びかけるメッセージ性の高い曲が多いこと、特にウイグル人に広く知られる歌謡「お父さんたち」の歌詞が問題視されたという。『参考資料』

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/musician-11022017162302.html>

<https://freemuse.org/news/uyghur-dutar-king-detained-in-china/>

2) ポップス歌手 アブラジャン・アユップ (Ablajan Ayup)

若くハンサムなポップス歌手も収監されている。若い女性を中心に熱狂の人気を誇るアブラジャン・アユップ (34) は、「ウイグルのジャスティン・ビーバー」と欧米誌で紹介されたこともある。ウイグル語のみならず英語や中国語でも歌っていたから漢人にも人気だった。今年 2 月に上海でコンサートを行った 2 日後、ウルムチで拘束された。昨年マレーシアを訪問したことや、民族や故郷への愛を歌っていたことなどが原因とささやかれている。『参考資料』

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/singer-05182018131924.html>

<https://freemuse.org/news/uyghur-pop-star-detained-in-china/>



5. 【メディア関連】

1) ミスラニン・ドットコム (misranim.com) の創設者

アバベクリ・ムフタル (Ababekri Muxtar)

インターネットのウイグル語サイトも一昨年から昨年にかけて続々と閉鎖され、運営者がことごとく拘束された。また、同サイト管理人トゥルスンジャン・メメット (Tursunjan Memet) も行方不明になっている。トゥルスンジャンの父親は RFA の取材に応じて、「自宅から 6 人の公安に連れ去られ、どこに居るかさえ分からない」と証言した。『参考資料』

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/authorities-detain-uyghuer-web-masters-and-writers-in-chinas-xinjiang-06132016153910.html>



2) 「バクダシ (bagdax.cn)」創設者 アクバル・エゼット (Akbar Eset)、

3) 「ボズキル (bozqir.net)」の創設者で自治区教育庁職員のアデル・リシット (Adil Rishat)、

4) テレビ番組の脚本家として知られるオマルジャン・ヘセン (Omarjan Hesén)

5) 新疆人民ラジオ局記者で新疆教育出版社の教科書編集者でもあったジャーナリストのヤルクン・ルーズ (Yalqun Ruzi) (52) も行方不明になっている『参考資料』。最近の情報では、17 年刑で刑務所に入れられたという。

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/06/post-10388.php>

2018 年 9 月 25 日ラジオ・フリー・アジアから驚く内容の報道があった。ヤルクン・ルーズ氏に「**終身刑**」が言い渡されたと、ウイグル現地からの情報として伝えた。

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/siyaset/radiyomizgha-mektup-09242018150730.html?encoding=latin>



ウイグル語書籍は粛清のため書店や一般家庭から没収された。新疆ウイグル自治区文学芸術連合の元会長で、詩人のイミン・アフメディ (Imin Ahmidi) は昨年 6 月、RFA の取材に対し「過去に出版されたウイグル人作家の著作が再検査されている」と語った。ウイグル人に愛読され、現代ウイグル文学を代表する小説であるアブドゥレヒム・オトキュル (Abdurehim Otkur) 『目覚めた大地』や『足跡』、ゾルドゥン・サビリ (Zordon Sabir) 『母なる故郷』なども規制の対象になった。

『参考資料』 <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/06/post-10388.php>

## 6. 【経済界】

- 1) イリ・カザフ自治州 慈善家・不動産開発商 ヌルタイ・アジ (Nurtay Haji、努尔塔依・阿吉)



努尔塔依阿吉学校

ChinaAid がイリ・カザフ自治州及びカザフスタン人の商人から得た情報によると、有名な慈善事業、不動産開発商のヌルタイ・アジが昨年、20年の刑で刑務所に送られたという。ヌルタイ氏はヌルタイ氏個人の全額寄付で孤児、貧しい子供たちのための、全寮制の寄宿学校「努尔塔依阿吉学校」を建設し、これまでに多くの学生を支援していた。

ChinaAid の情報では、ヌルタイ氏と一緒に 10 数名のウイグル、カザフ商人が逮捕されたという。ウイグルの他の地域でも銀行に一定額 (100 万～数 100 万元) 以上の貯金がある人たちも次々と拘束されている。

[http://www.chinaaid.net/2018/07/blog-post\\_11.html](http://www.chinaaid.net/2018/07/blog-post_11.html)

2017 年 5 月に、カシュガル地区で最も成功した経営者ウイグル人の以下 4 名が「宗教的過激主義」という罪で投獄された：

- 2) カシュガル貿易協会会長 物質運送会社経営者 アブドジェリル・ハジム (Abdujelil Hajim)
- 3) カシュガル Emin 貿易市場のオーナー ゲニ・ハジ (Gheni Hajim) ,
- 4) カシュガル Eziz Diyar 市場のオーナー メメット・トルソン・ハジム (Memet Tursun Hajim) ,
- 5) カシュガル Ibnsina 歯科病院 オーナー イミン・ハジム (Imin Hajim)

以上の 4 人いずれにも「ハジム」という名称がついているのは、イスラム聖地のメッカにハッジに行ってきたことを意味する。RFA の電話インタビューに答えた現地の保安員の情報によると、罪は「承認されていない民間の巡礼に行った」、「宗教的過激派の兆しがあった」という。4 人は 8 年から 18 年の懲役刑を言い渡された。

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/wealthiest-01052018144327.html>

- 6) カシュガル Kasir ホテルのオーナー レストラン経営者 オブルカスム・ハージ (Obulkasim Haji)  
RFA のインタビュー情報によると、67 歳のオブルカスムは 2017 年 12 月 5 日入院していたウルムチ市の病院から公安に連行され、再教育キャンプ (強制収容施設) に送られたそうだが、拘束理由や監禁場所がいまだに不明。





<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/hotelier-05072018130431.html>

7. 【官僚・公安関係者】

- 1) ウイグル自治区林業庁庁長 エズズ・ケユム (Ezir Qeyum)
  - 2) ホータン地区公安局副局長 ニジャティ・アウドン (Nijat Awudon)
  - 3) ホータン地区公安局元副局長 エリ・イミン (Eli Imin)
  - 4) ウイグル自治区特捜部ホータン支部隊長 アブドカデル・アブラ (Abduqadir Abla)
  - 5) ホータン市公安局副書記 政委 ヤリクン・アブドラザク (Yalqun Abdurazaq)
  - 6) カシュガル カラカシ県 (Qaraqash) 公安局元副書記 政委 アバベクリ・イリ (Ababekri Eli)
  - 7) ホータン地区公安局国保支部課長級捜査員 モハタル・トスン (Muxtar Tursun)
- らが「重大な規律違反」で拘束され、最近の状況は不明である。

参考資料:

[http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c\\_129473389.htm](http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm)

<http://news.sohu.com/20170209/n480334060.shtml>

- 8) ウイグル自治区チャルチャン県公安局政治委員 アリフ・トルソン (Ghalip Tursun)

8月18日の現地新聞が、アリフ氏が「テロリスト、3種勢力と協力し、庇った」とし、拘束されたことを報じた。参考資料：  
(右写真)

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/qanun/cherchen-uyghur-08202018153604.html?encoding=latin>



- 9) ウルムチ市公安局 元副局長カディル・メメット (Qadir Memet)

ウルムチ市公安局 現役副局長のジュレット・イブラヒム (Juret Ibrahim)

最近、2019年8月と9月に、ウイグル弾圧・厳打で冷酷無情な悪人と知られている、ウルムチ市公安局の元副局長カディル・メメット (Qadir Memet) 氏と現役副局長のジュレット・イブラヒム (Juret Ibrahim) 氏が相次いで拘束されたことがRFAより報道された。この二人はいずれも、ウイグル人拘束、収容所のことを知りすぎ、一部の内密情報を漏らしたとの疑いで拘束されたと推測されている。下写真の左はカディル氏、右はジュレット氏である。



<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/saqchi-bashliqi-08292019134827.html>

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/saqchi-bashliqi-09172019161011.html>

## 8. 【地方の党・政府責任者】

2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を発揮した陳全国が新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、権力を誇示する最初の威圧的行動は、ホータン地区基層の97名幹部への問責・免職処分を実行することだった。陳の指示で組織された共産党幹部らの査察グループが2017年3月12日からホータン地区の各町、村に入り、たった一週間ほどの調べを行ったあと、3月26日各種の理由で97名幹部（ほとんどウイグル人）に一気に免職処分を下した。処分内容から人権侵害の典型的な例であることがわかる。例えば、ホータン県のブザク郷（布札克郷（郷））党支部書記のジェリリ・マイティニヤズ（Jelil Memetniyaz）は「宗教師の前でタバコを吸うことに躊躇した」理由で懲戒免職された。97人の懲戒免職理由には、そのほかに、「毎朝の国旗揚の怠慢、揚回数 of 誤報、住民宅へ走訪・個人情報データの収集を徹底していない」など様々なレッテルがあった。

参考資料：

[http://www.china.com.cn/news/2017-04/10/content\\_40588424\\_2.htm](http://www.china.com.cn/news/2017-04/10/content_40588424_2.htm)

<https://www.boxun.com/news/gb/china/2018/01/201801301321.shtml>

<http://news.sina.com.cn/c/nd/2017-04-09/doc-ifyeceza1781280.shtml>

## 第四章 “新疆ウイグル自治区”： 中国高度な監視下の野外刑務所



### 1. 中国当局はウイグル地域を「野外刑務所」化

東トルキスタン（現“新疆ウイグル自治区”）は、古代からヨーロッパと東アジアをつなぐ要衝であるだけでなく、石炭、石油、天然ガス等地下資源の豊富な地域でもある。1949年に中国人民解放軍が東トルキスタンに侵攻し、「新疆ウイグル自治区」として共産党の支配下に組み込んだ。それ以来、中国当局によるウイグル人への差別的、抑圧的政策がずっと続いている。

#### 1.1 【漢民族の大量移住】

中国内陸から漢民族をウイグル地域に大量移住させるのと同時に、多くの若いウイグル人・未婚女性を労働力として中国内陸の工場などに移送し、ウイグル自治区におけるウイグル人口比率の減少を図っている。他に少数民族までに適用された“計画生育”制度も功を奏して、1949年に6%だった漢民族人口が、2010年には40.1%に達している（新疆维吾尔自治区2010年第六次全国人口普查主要数据公报）『参考資料1』。「新疆軍区」数十万軍人とその家族、300万人以上とされる「新疆生産建設兵団」の人口はこれに含まれない。

漢民族がこの地に大量進出してきた、経済発展の恩恵を独占した結果でウイグル族との格差が広がる一方である。中国当局によりウイグル人に対して差別的政策が実施され、憲法で定めたウイグル人固有の言語、文化的・宗教的権利も侵害されてきた。

#### 1.2 【7・5 ウルムチ虐殺】

そんな中、2009年6月に中国広東省の玩具工場で労働者として勤務しているウイグル人が中国人に襲撃され多数が殺傷された事件に対する中国政府の対応への不満がきっかけに、ウイグル人の怒りがさらに高まった。同年7月5日にウルムチ市でウイグル学生らによる大規模なデモが発生した。平和的な抗議行動は、中国当局の軍、武装警察



によって、過剰な武力行使を通して残虐に制圧され、数千人がウルムチの町で殺害され（中国当局の発表では197人死亡）、殆どのデモ参加者が逮捕された。これは「7・5ウルムチ騒乱」「7・5ウルムチ虐殺」と呼ばれる。『参考資料2』

### 1.3 【悪漢・陳全国】

2009年以降、中国共産党当局によるウイグル人の監視はさらに強まった。特に、元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を發揮した陳全国が、2016年に新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、ウイグル人への監視・弾圧が特段に強まった。新疆ウイグル自治区は、習近平政権が推進する現代版シルクロード経済圏構想「一带一路」の戦略的要衝でもあり、そこに完全に監視され・封じ込められた社会を作り上げることが習近平政権の謀略と言えるだろう。

陳は、1年も経たない間に、9万人を越す治安関係ポストを募集し、ウイグル地域における「監視社会」の完成を手掛け、2017年1年間でウイグル自治区の警察の人員が2015年の6倍にまで膨れあがった『参考資料3』。

ウイグル自治区全地域で、500m間隔で交番（便民警務站）が設置され、一つに8~30名の武装警察が配備された。アクト県だけで2017年10月以降、68個の交番を新たに設置したことを現地で当番中の警察がRFAのインタビューで明らかにした『参考資料4』。

陳全国は、ウイグル全地域で上述した「再教育センター」というナチス式強制収容所や以下で述べる監視社会を作り上げた首謀者・真犯人である。

### 1.4 【最先端の監視技術の実験場】

中国国内には昨年秋の時点で監視カメラが1億7000万台設置されており、今後3年間でさらに4億台が追加されると推定されている。監視カメラの多くには人工知能（AI）が搭載され、顔認証技術などを備えている。その「最先端の監視技術を試行する実験場」となったのは新疆ウイグル自治区である。中国政府は2017年第1四半期（1~3月）にウイグル自治区で10億ドル（約1130億円）以上に相当するセキュリティー関連の投資計画を発表したとウォール・ストリート・ジャーナル紙が明らかにした『参考資料5』。

国際人権組織ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）は明らかにした情報によると、中国当局は、問題を起こす危険のある人物を特定し、先んじて拘束するため、新疆ウイグル自治区に大量のデータを駆使した監視プラットフォームを配備している。この「予測による治安維持」プラットフォームについて、当局が監視カメラの映像や、通話・旅行記録、宗教的志向などの個人情報と統合・分析し、危険人物を特定するためのものと説明する。カシュガル市だけで今年3月、5100万ドル（約55億円）以上を投じて、統合データプラットフォームを含む監視システムを購入・設置した。この監視カメラシステムは、瞬時に人の顔と歩き方を識別して個人を特定し、データベースと照合して年齢、性別、身長、民族アイデンティティを判定。その上、親族や知人といった人的ネットワークまで割り出すことができるといふ『参考資料6』。

米政府は最近、ウイグル監視に関連する中国の企業5社をブラックリストに掲載し、米国の重要技術利用を事実上禁じることを検討していることが分かった。これらの5社は、曠視科技（メグビー）、杭州海康威視数字技術、浙江大華技術、美亜柏科信息与科大訊飛である。米政府は、顔認証機能を持つ杭州海康威視数字技術と浙江大華技術の監視カメラがスパイ活動で使われる可能性についても憂慮しているという『参考資料24』。

### 1.5 【政治的信頼度点数表】

ウイグル人の研究者で記者のタヒール・イミン（Tahir Imin）氏は昨年2月、新疆から米国に亡命した。同氏はウルムチに住む友人が6月、当局に拘束されたと話す。定期的な礼拝、パスポートの所持、トルコへの渡航記録が減点の対象となったという。そして「マイナスポイントが70を上回ると、危険人物と見なされ、警察に通報される。警察はこれを受け、拘束した人物を再教育センターに送る」と明

かした『参考資料7』。

以下の「人口個人情報採集表（表1、『参考資料5』）」は、ウイグル自治区全域で「危険人物」を割り出すために使われているものである。表の右側に「重要情報」とされた内容は、年齢が（15～55歳）、ウイグル人か、失業者か、パスポート保持者か、毎日礼拝するか、宗教知識があるか、26の“センシティブな”国に行ったことがあるか、海外とのつながりがあるかなどである。

表1. 人口個人情報採集表

また、ウルムチ市の各社区で実際の登記に使われている「常住戸民族語系点数表（下表2）『参考資料7』によると、各住民一人一人に10カテゴリーで10点ずつ点数付け、ウイグル人の政治的信頼度を評価している。

例えば、この表の1番目のイブライム・イスマイル氏（83歳）には50点付けられ、「一般注意人物」とされている。

表2. 常住戸・民族語系

ウイグル人であれば10点、パスポート保持者であれば10点、礼拝していれば10点、宗教知識があれば10点、対象の26か国のどれかに行ったことがあれば10点それぞれ引かれ、合計点数は50点となっている。この点数が低いほど「危険人物」とされる。もし、この方が55歳以下で、海外とのつながりがある人だった場合は、点数が30点（マイナス70点）で、即拘束対象となり、収容所（再教育センター）に送られることになる。

亡命者の証言によると、誰が礼拝しているか、誰が断食しているか（イスラム・ラマダンの時期にどの家の人が夜中に起きて明かりをつけているか、職場、学校でお昼ご飯を食べていないかなど）を常にチェックするため、町、村、学校で10人を1グループにし、相互監視体制を作っている。知っている情報を隠した人も罰せられるようになっている。また、政府幹部に住民と「親戚（双親）」を作らせ、住民の宗教意識、共産党への忠誠心を調べ、人ひとりに点数をつける任務を与えている。その中で、収容所に入れられた若いウイグル女性がいる家に「親戚」となった漢族男性が寝泊まりするケースもあるという。

1.6 【一般家庭に政府幹部が宿泊】

国際人権組織ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）が「ウイグル人家族の家に中国共産党政府職員がホームステイしている」と5月13日に報告を発表した『参考資料8-9』。報告によると、ウイグル

人密集地域の一般家庭が近年、政府幹部による定期的な「ホームステイ」の受け入れを強いられている。中国政府による「民族団結」を名目とした厳しい監視が目的とみられ、官製メディアの情報として、当局は2017年に職員100万人を同地農村へ派遣したと伝えている。職員をウイグル人家族と「共に食べ、共に住み、共に労働し、共に学習」させるという。

### 1.7 【スマートフォンにスパイウェアを強制装着】

中国にいるウイグル人はまた、2017年4月からスマートフォンに**スパイウェア・アプリ**をインストールすることを強制されている。「ラジオ・フリー・アジア」の報道によれば、「百姓安全」、「Jinwang」と呼ばれるこのアプリは、政府が市民の携帯デバイスをスキャンし、「テロリストや違法な宗教に関する映像・写真・ファイル類を所持していないか確認する」ためのものだという。これらのアプリをインストールすると**微信(Wechat)**やSNS「**微博(Weibo)**」のログ、SIMカード情報、Wi-Fiのログイン情報などがサーバーに送信される。インストールを拒否したり、一度インストールしたアプリを削除したりすると、10日間拘束されることがあるとのこと『参考資料10-13』。

今はすべてのウイグル人が24時間監視され、Wechatなどを通して海外にいる親戚と連絡することも一切できなくなっている。我々海外にいる人たちはウイグルにいる親戚から「連絡しないで」と言われている。公安警察からハラスメントや脅迫を受けていると思われる。

### 1.8 【全車両にGPSを強制装着】

中国当局また、ウイグル地域にあるすべて自動車に対し、中国版全地球測位システム(**GPS**)「**北斗**」の端末の設置を義務付けたと米政府系放送局ラジオ・フリー・アジア(RFA)が伝えた『参考資料14』。昨年の6月30日までに全車両への「北斗」の端末設置を終える計画となっていた。重機や工事用の車両なども対象となり、端末を設置していない車両は、ガソリンスタンドで給油が拒否されるほか、中古車市場で取引ができない。

### 1.9 【ウイグル人のパスポートを没収】

中国国内でパスポートを持っている全てのウイグル人からパスポートが没収され、観光や留学のため海外に行くことは非常に難しくなった『参考資料15』。海外留学のため、新しくパスポートを作ることができなくなった。両親のことが心配で海外から一時帰国した学生のパスポートも没収されるほか、再教育センターに入れられたケースもある『参考資料16』

### 1.10 【ウイグル人逮捕者数が全国の21%】

中国の人権を監視する国際NGO組織・中国人権擁護(Chinese Human Rights Defenders)は、7月25日にウイグル人逮捕者数を発表した『参考資料17』。中国政府が発表した数字によると、2017年に新疆ウイグル自治区で、刑事的罪で逮捕された人数は全国の同じ罪で逮捕された総数の21%を占めたという。新疆人口は中国全国人口のわずか1.5%を占めているにもかかわらずだ。中国人権擁護は、2008~2017年間にウイグル自治区で逮捕された人数の比較調査を行い、2017年1年で227,882人が逮捕されたこと、これは2016年の逮捕者数27,404人の8.3倍だったことを明らかにした。報告では、これは中国当局が「三股勢力」(暴力恐怖主義、民族分裂主義、宗教極端主義)名目の厳打(厳しく取り締まり)運動の結果との認識を示した『参考資料18』。

## 2. 中国当局はウイグル住民からDNAなど生体データを採集

### 2.1 【検診名目でDNA採集】

中国国営の新華社通信は2017年11月、衛生当局の統計として、新疆の総人口の9割に相当する約1900万人がこの「検診」を受けたと伝えた。また、中国最大手インターネットポータルサイト「新浪(Sina)」が2017年11月1日、新疆ウイグル自治区衛生計画生育委員会から入手した情報として、ウイ

グル自治区は昨年 15.85 億元投資し、全自治区で 1884.48 万人、その中、南疆 4 地区・州（ウイグル密集地域）で 912.71 万人（100%）の検診を終えたと伝えた『参考資料19』。

国際 NGO 人権組織の「ヒューマン・ライツ・ウォッチ（Human Rights Watch）」は、このような大規模な強制収集は国際人権規約を踏みにじるものだと批判した。

当局に「全民検診」と呼ばれたこの無料のプロジェクは、12 歳から 65 歳までの住民を対象に DNA や血液のサンプル、指紋、虹彩、血液型などの生体データを集めている『参考資料20-23』。

なぜ 1000 万人近くのウイグル人から血液サンプルの採集と DNA 検査が必要なのだろうか。最も考えられるのは以下の「臓器狩り」のためである。

臓器移植や造血幹細胞移植では、レシピエント（受取人）自分の DNA、具体的に言えば白血球抗原である HLA のタイプに合わないものはすべて異物と認識して攻撃を始めてしまうため、HLA の適合性が重要視される。そのために HLA 検査を行い、ドナーとレシピエントの適合性を読みとることが必要となる。

HLA とは？

赤血球には A 型、B 型、AB 型、O 型などの血液型があり、輸血の際には血液型を一致させないといけないのだ。同様に白血球をはじめとする全身の細胞にはヒト白血球抗原（HLA：Human Leucocyte Antigen）と言われる型があり、移植には患者とドナーの HLA 型の一致する割合が関係してくる。HLA 型で A 座、B 座、DR 座というのがあり、完全一致から一部一致の優先順位がある。

## 2.2 【臓器狩り】

第一章でも述べたが、これまでの報道で各収容所から続々死者が出ていて、家族に返す・見せることなく、新しく設けられた一般人が入ることのできない遺体処理・安置所で処理されている。臓器売買のため、臓器が抜き取られた痕跡のある遺体もあったという情報がある。

以下の写真 1,2 はその証拠である。これは観光でウイグルに行った日本人により 2018 年 1 月にカシュガル空港で撮られた写真であり、空港では「人体器官運送通路」、「人体寄付、移植器官航空運送保障プロセス」標識の専用通路やスペースが用意され、国家ぐるみで監禁されている人から強制的に臓器を摘出していることを示す徹底的証拠である。



写真1, 2. カシュガル空港で臓器運送を示す

ウイグル出身（中国・東トルキスタン）の在英の元外科医エンヴァー・トフティ（Enver Tohti）氏は、こうした不合理な新疆地区住民の DNA 採取について、中国移植権威で富裕層や外国人移植希望者のための移植用臓器となる「生きた臓器バンク」とし、住民を秘密裏に「ドナー登録」しているのではないかとの推測を述べた『参考資料19』。また、アラブ諸国からの臓器移植希望者は信仰により、豚肉を食べない人のドナーを希望する場合がある。トフティ氏は近年、新疆を訪れて、宣伝広告された「ハラール・

オーガン（豚肉を食べていない人の臓器）」を入手している人が増えていると述べた『参考資料 25』。

中国での不法な臓器移植の実態を調査している中国臓器収奪リサーチセンター（本部・ニューヨーク）によれば、中国の病院で臓器移植の手術を受ける患者の待機時間は平均で 1～4 週間。最短では数時間で適合臓器が見つかることもあるそうだ『参考資料 26』。

これは世界の移植医学の常識からは考えられない短さである。ドナー登録制度が確立した世界最大の移植大国であるアメリカでさえ、心臓なら 8 ヶ月、肝臓なら 2 年 2 ヶ月、腎臓では 3 年 1 ヶ月の平均待機時間を要する。その上、移植手術に求められる血液型と細胞の組織型の同時一致がみられる割合は、兄弟姉妹の間では 4 分の 1 の確率とされるが、非血縁者間では、数百から数万分の 1 の確率でしか一致しない。

ところが、中国に行けば通常、1 週間から 4 週間で適合する臓器が見つかるというのだ。なぜ中国でのみ、このように世界常識を覆す迅速な移植手術が可能なのか？ 中国には、需要があれば直ちにそれに応えられる大量の臓器ストックがあるからだ——としか考えられない。

中国臓器収奪リサーチセンターの調査報告によると、現在中国で行われている臓器移植の数は 6～10 万件だという。2013 年に中国はドナー登録制度を採用し、2015 年には死刑囚からの臓器摘出を中止したと発表した。しかし、2017 年現在、ドナー登録数はいまだ 5500 人程度にとどまり、年間 6 万から 10 数万件規模で行われている移植手術のための臓器の出所は到底説明できない『参考資料 26』。

中国衛生部（厚生省）の前副部長・黄潔夫氏は 2017 年 7 月 26 日、AP 通信のインタビューで、2020 年には、中国は米国を抜いて世界一の移植大国になると主張した『参考資料 27』。堂々と宣言できるほど、「臓器狩り」は国家ぐるみのプロジェクト化されたことである。

こうした「中国での強制臓器収奪問題」に関して、2019 年 6 月 17 日に英国ロンドンで開廷された「中国の強制臓器収奪に関する民衆法廷」で、「中国では違法な臓器の収奪と移植がいまも続いている」との立証であり、「人道に対する犯罪」の“有罪判決”が下された『参考資料 28-29』。

### 3. 海外在住のウイグル人（留学生、永住者、帰化者）も監視対象に

#### 3.1 【在日ウイグル人の被害】

東トルキスタン（新疆ウイグル自治区）で 300 万人を超えるウイグル人が「再教育センター」と呼ばれる収容所に収監され、著しく人権被害を受けていることをアメリカ、ヨーロッパ各国のメディア、政府機関、国連などが続々報道し、厳しく非難した。昨年 7 月ごろから日本でも報道され始めた。

2018 年 7 月 19 日、NHK-BS1 テレビチャンネルの国際報道番組「中国でウイグル族大量拘束 今何が？」で、中国のウイグル人への弾圧、収容所の実態を報道した『参考資料 30』。これは日本において、主要メディアとして初めての報道であった。

当番組で在日のウイグル人 8 名が「家族が収容所に送られ、全く連絡がつかず、生きてるか死んでいるかもわからない」と証言した。その後の、NHK テレビ及び Web 特集として何回も報道があり『参考資料 31-33』、徐々に日本の諸メディア（テレビ、新聞、ネットニュース）で活発にウイグル弾圧の状況や在日ウイグル人の証言が報道されるようになった。

日本には約 2000 名のウイグル人がいるとされていて、多くのウイグル人の家族が同じく中国で被害を受けている。しかし、その多くはウイグルにいる家族、親戚がさらなる被害・弾圧を受けることを恐れて、沈黙しているのが実情である。だが、「今こそ、国で沈黙せざるを得ない同胞に代わって、国外に住む私たちが声を上げるべきときだ」という在日ウイグル人も増えている。

上の NHK 番組でも紹介されたが、在日ウイグル人人権団体である「日本ウイグル協会」の呼びかけで、7 月 1 日東京の中心繁華街である新宿で大規模なデモが行われた。これまでに沈黙してきたウイグ



ル人 100 人以上が参加した。デモでは、「不当な拘束をやめろ」、「強制収容所を閉鎖しろ」、「家族を返せ」、「お父さんを返せ」、「ウイグルに自由を」、「日本人は我々を助けてください」と訴えた。7月7日また六本木、中国大使館前で 150 人以上のウイグル人によるデモがあった。これほど多くの在日ウイグル人が中国のウイグル人弾圧を訴え、このようなデモに参加したのは初めてであった。

ウルムチ大虐殺事件『第 4 章 1.2 参照』から 10 年経った 2019 年 7 月 5 日に、NHK 総合テレビは、「ウルムチ大虐殺から 10 年」（ニュースウォッチ 9）という番組を放送した。

また、2019 年 7 月 16 日に、NHK 国際報道「大規模デモ 10 年 追い詰められるウイグル族」で、さらに詳細な報道があった。その番組で、数名の在日ウイグル人が証言した。



その一人のアフメット・レテプさん（41）は次のように語った。「一昨年（2017年）の故郷で暮らす父と弟をはじめ、親族 12 人が公安当局に拘束された。母親とも去年 2 月を最後に、連絡が取れなくなった」。そして、その 1 か月後の 3 月、今度はアフメットさんの携帯に、突然父親の映像が送られてきた。送り主は「地元公安当局」を名乗る男だった。1 年ぶりに見た父親は、いつもかぶっていた伝統の帽子を脱ぎ、イスラム教徒の高齢男性が生やすひげもそり落としていた。「これは私が知っているお父さんじゃない。全然違う。別人だ」とアフメットさんが涙を流していた。その後、「地元公安当局」を名乗る男から音声メッセージが携帯に送られてきた。「日本のウイグルの組織に直接参加しないにせよ、状況は把握しているはずだ。我が国の立場に立って協力してくれれば、家族の問題はすぐに解決できる。私の言っている意味が分かりますよね？」。故郷の家族をいわば人質にして、日本にあるウイグル族の組織の内部情報を流すというスパイ行為に協力するよう要求してきたとアフメットさんは受け止めた。精神的に追い詰められたその時の気持ちを、涙を流しながらこう語っていた。「断れば家族がさらに迫害を受けることは明らか。でも協力すれば自分自身が人間として許せない」。家族の身を案じる



アフメットさんは、1年以上、受け取った映像やメッセージを公にすることは控えてきた。しかし、沈黙を続けていても、事態は変わらないと考え直し、NHKの取材で公開することにしたという。

同じことが在日ウイグル人多くの身におこっていることである。一時帰国して日本に戻ってこられないケースや家族が強制収容所に入れられているだけでなく、収容所で突然亡くなったケースもある。

私たちが把握した情報では、例えば、2年前に娘を連れて一時帰国したお母さん（Mさん）は、パスポートが没収され、母子とも日本に戻れていない；在日ウイグル人Gさんの弟（24歳）が昨年5月に収容所で亡くなり、遺体を家族に返してくれなかったという。死因は何なのか、遺体はどこに、どういう方法で処理されたかなどの情報は一切聞かされていない。電話に答えた親族は「党のケアの元で葬送した、さようなら」といっただけで、他に何も言えなかったという。

その他、在日ウイグル人で中国パスポートの有効期限が近づき、中国大使館に更新手続きに行ったところ、中国新疆に帰って現地で更新してくるように言われ、更新できなかった人が何人もいる。その中にパスポートの有効期限が既に切れ、中国に帰ることもできず（中国に帰ると収容所に送られることが明白であるため）、困っているウイグル人がいる。また、日本の大学院を卒業したらウイグルに帰るつもりで、日本で就職活動をやっていた人で、中国に帰ることを恐れて、日本に残らざるを得ない人や日本滞在ビザの心配をしている学生も多数いる。

在日ウイグル人(帰化者を含む)の被害状況をまとめると以下のようになる。

- ・日本（海外）にいるウイグル人は中国にいるご家族と連絡が取れなくなっている。
- ・在日ウイグル人でもご家族が収容所に収監された人が多数いる。
- ・在日中国大使館がウイグル人のパスポート更新申請を受け付けなくなっている。
- ・一時帰国者が収容所に入れられたりして日本に戻ってこられなくなっている。
- ・中国にいる家族が人質に取られて、留学生ら自身は帰国やスパイ活動が強要され、「従わないと家族を再教育センターに送る」と脅迫されるケースが増えている。
- ・帰化やビザ申請に必要な書類の中国からの取り寄せができなくなっている。

### 3.2 【海外にいるウイグル人の被害】

中国政府はウイグル弾圧の手を海外まで伸ばしている。例えば、以下のような報道がある。

- ・エジプトで中国のウイグル族の拘束・強制送還相次ぐ



<http://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2017/09/0901.html>

Uyghur Students in Egypt Detained, Sent Back to China

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/students-07072017155035.html>

- ・海外にいるウイグル人にスパイ活動を強要

Spy for Us — Or Never Speak to Your Family Again

[https://www.buzzfeed.com/meghara/china-uyghur-spies-surveillance?utm\\_term=.ndzvJGJgbG#.aaplb9bgm9](https://www.buzzfeed.com/meghara/china-uyghur-spies-surveillance?utm_term=.ndzvJGJgbG#.aaplb9bgm9)

- ・親族訪問・一時帰国者のパスポート没収、「再教育センター」へ収監

“Uighur graduate student goes missing upon returning to China”

<https://www.amnesty.org/en/latest/news/2018/07/uyghur-graduate-student-goes-missing-upon-returning-to-china/>

『参考資料』

1. 《新疆维吾尔自治区 2010 年第六次全国人口普查主要数据公报》  
[http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/dfrkpcgb/201202/t20120228\\_30407.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/dfrkpcgb/201202/t20120228_30407.html)
2. 2009 年「7・5 ウイグル騒乱」  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/2009%E5%B9%B4%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%82%B0%E3%83%AB%E9%A8%92%E4%B9%B1>
3. 「AI に顔認証……中国がウイグルで実験し始めた監視社会の実態」  
[https://the-liberty.com/article.php?item\\_id=13986](https://the-liberty.com/article.php?item_id=13986)
4. 500m 間隔で武装警察交番設置, RFA 2017.08.17  
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/aqtuda-68-saqchi-ponkiti-08172017213200.html?encoding=latin>
5. 中国「完全監視社会」の実験場、新疆に行く, Josh Chin and Clément Bürge, The Wall Street Journal, 2017.12.22  
<https://jp.wsj.com/articles/SB11070217722261694869804583589052841366988>
6. ビッグデータで危険人物「予測」 中国の治安対策, The Wall Street Journal, 2018.02.28  
<https://jp.wsj.com/articles/SB12343497592033114173304584071460854064956>
7. ウイグル人の信頼度を決める点数表があった, RFA, 2017.12.20  
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/siyaset/uyghur-jedwel-07122017141518.html?encoding=latin>
8. China: Visiting Officials Occupy Homes in Muslim Region, HRW  
<https://www.hrw.org/news/2018/05/13/china-visiting-officials-occupy-homes-muslim-region>
9. Chinese Uyghurs forced to welcome Communist Party into their homes  
<https://edition.cnn.com/2018/05/14/asia/china-xinjiang-home-stays-intl/index.html>
10. 中国、ウイグル族にスパイウェアのインストールを強制, ベンジャミン・フィアナウ, NewsWeek Japan, 2017.7.26  
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2017/07/post-8062.php>
11. RFA 独家：新疆强迫居民安装手机监控软件 10 哈族妇女微信发言被拘, 2017.07.13  
<https://www.rfa.org/mandarin/yataibaodao/shaoshuminzu/ql2-07132017112039.html>
12. Report: Xinjiang Residents Forced to Download Spyware App, Chinese Regime Can Track and Censor Users  
<https://www.ntd.tv/2018/04/13/report-xinjiang-residents-forced-to-download-spyware-app-chinese-regime-can-track-and-censor-users/>
13. China forces Xinjiang Uyghurs to install mobile spyware, enforces with stop-and-frisk  
<https://boingboing.net/2017/07/26/jingwang.html>
14. Vehicles to Get Compulsory GPS Tracking in Xinjiang, RFA 2017.02.20  
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/xinjiang-gps-02202017145155.html>  
<http://www.alertchina.com/archives/2265113.html>
15. China confiscates passports of Xinjiang people

- <https://www.bbc.co.uk/news/world-asia-china-38093370>
16. Uighur graduate student goes missing upon returning to China  
<https://www.amnesty.org/en/latest/news/2018/07/uighur-graduate-student-goes-missing-upon-returning-to-china/>
  17. Criminal Arrests in Xinjiang Account for 21% of China's Total in 2017. NCHRD, Jul 25, 2018  
<https://www.nchrd.org/2018/07/criminal-arrests-in-xinjiang-account-for-21-of-chinas-total-in-2017/>
  18. 人权组织指中国当局 2017 年以刑事罪逮捕的穆斯林人数是上一年的 7 倍多, RFA, 2018.07.25  
<https://www.rfa.org/mandarin/Xinwen/d-07252018162042.html>
  19. 新疆投入 15 亿多元完成新一轮全民健康体检工程, 新浪(Sina), 2017.11.01  
<http://news.sina.com.cn/o/2017-11-01/doc-ifynmnae1006240.shtml>
  20. 中国当局、新疆で 1900 万人の DNA 採集 「無料の全民検診」実施, The Epoch Times, 2017.12.15,  
<http://www.epochtimes.jp/2017/12/30173.html>
  21. 中国：少数民族から DNA サンプルを数百万人規模で採取  
<https://www.hrw.org/ja/news/2017/12/13/312755>
  22. China collecting DNA, biometrics from millions in Xinjiang: report  
<https://edition.cnn.com/2017/12/12/asia/china-xinjiang-dna/index.html>
  23. China Is Vacuuming Up DNA Samples from Xinjiang's Muslims  
[https://www.buzzfeed.com/meghara/china-is-quietly-collecting-dna-samples-from-millions-of?utm\\_term=.reOnBxBjGX#.mabNxJxZqj](https://www.buzzfeed.com/meghara/china-is-quietly-collecting-dna-samples-from-millions-of?utm_term=.reOnBxBjGX#.mabNxJxZqj)
  24. 米政府、中国の監視関連企業 5 社のブラックリスト掲載を検討  
<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-05-22/PRXCM56S972801>
  25. ウイグル収容者、臓器移植センターに近い沿岸部刑務所へ移送＝元医師  
[https://www.excite.co.jp/news/article/EpochTimes\\_41331/](https://www.excite.co.jp/news/article/EpochTimes_41331/)
  26. 中国移植医療の実態、SMG ネットワーク  
<http://smgnet.org/china-organ-transplant/>
  27. 中国衛生部の前副部長・黄潔夫氏「中国は 3 年後世界一の移植大国になると主張」  
<http://www.epochtimes.jp/2017/08/28097.html>
  28. 中国の「臓器狩り」疑惑に英国の国際民衆法廷が「有罪判決」, 2019 年 8 月 3 日  
[https://www.news-postseven.com/archives/20190803\\_1425603.html](https://www.news-postseven.com/archives/20190803_1425603.html)
  29. 2019 年 臓器収奪の民衆法廷, Bitter Winter, 2019 年 4 月 16 日  
<https://jp.bitterwinter.org/organ-harvesting-tribunal-2019/>
  30. NHK-BS1 国際報道「中国でウイグル族大量拘束 今何が？」2018.07.19  
<http://www6.nhk.or.jp/kokusaihoudou/bs22/feature/index.html?i=180719>
  31. “100 万人収容” ウイグルで何が起きているのか  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20181214/k10011746441000.html>
  32. 大規模デモ 10 年 追い詰められるウイグル族,  
<https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2019/07/0716.html>
  33. 絶望から生まれた勇気 ～在日ウイグルの訴え～  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190712/k10011990981000.html>

その他：

ウイグル人の政治的迫害 - 個別事件の簡単な説明概要

Political Persecution of the Uyghurs—Brief Description of Some Individual Cases

<https://freedomsherald.wordpress.com/2018/01/19/political-persecution-of-the-uyghurs-brief-description-of-some-individual-cases/>

## 第五章 中国のウイグル言語への侵害状況

ウイグル語教育 → 「双語」教育 → 漢語のみの教育への転化  
→ 幼稚園、小・中・高校、大学でのウイグル語使用全面禁止へ

1949年に中国人民解放軍の侵攻により共産党支配下に置かれ、1955年に設置された新疆ウイグル自治区（東トルキスタン）の当初は、東トルキスタン・イリ政府と中国共産党の交渉、平和条約の約束通り、それまでに展開されてきたウイグル言語など独自の民族言語による教育が継続された。1950年初頭からは漢語が選択科目として導入されていた。

しかし、1960年代に入ると次第に漢語教育が重要視されるようになり、漢語が民族学校において必須科目となる一方、漢語学校に設置されていたウイグル語の選択科目は廃止された（リズワン, 2009）。

1977年から新疆ウイグル自治区政府は少数民族への漢語教育の強化を政策課題としてさらに強調するようになった（リズワン, 2009；Mamtimyn 他, 2015）。

1982年制定の中華人民共和国憲法では、少数民族言語による教育が保護されることになった（Grose, 2010）が、実際には教育現場における漢語への一元化が推進されていった。

1990年代末からは少数民族の漢語習得、主流文化の吸収が強く促されるようになる（王, 2006）。

2004年に交付された「全面的に双語教育を推進することに関する決定（関与と大力推進双語教学的決定）」により、ウイグル語の授業のみをウイグル語で行い、その他の科目はすべて漢語で教える「双語教育」に取って代わられることとなった（アナトラ, 2013；リズワン他, 2014）。

2010年からウイグル全地域において幼稚園、小学校一年から「双語教育」が実施されるようになり、中国内陸からウイグル語が知らない漢族教師が大量に投入された。例えば、2017年4月26日ホータン地区・チラ県政府ウェブサイトでの募集（参考資料8）によると、人口13万人のこの県だけで1093人の教師を中国内陸から募集している；またホータン地区政府からも中国内陸向けの同様な募集（参考資料9）があり、現地一般教師給与の2倍以上の賃金が提示されている。これにより、学校ではウイグル語の授業がほとんど行われなくなり、漢語を習い始めたばかりの子どもたちに、すべての授業を漢語で行うようになった。一方、これまでに長年ウイグル語による授業をやって来たベテランの優秀な教師たちが、漢語水準が満たない理由で「下放」された（教育現場から追い出された）。教育レベル、学生の知力が著しく落ちていった。

この時、ウイグル言語に対する危機を感じた有志の教育者が私立のウイグル語幼稚園、小学校の設立を試みた。現在トルコ在住のアブドワリ・アユップ（Abduweli Ayup）氏（参考10）がウイグル語学校設立を仕掛けた一人である。アブドワリは2011年アメリカ留学から帰国したあと、カシュガルでウイグル語学校を立ち上げた。しかし、2013年にアブドワリ氏を含む学校設立に関わった3人（他 Dilyar Obul, Muhemmet Sidik Abdurshit）が、寄付で集まった支援金の「横領罪」で投獄され（明らかに冤罪である）、ウイグル語学校計画が減ぼされたのである。（その後、アブドワリ氏は治病のためトルクに渡り、現在もウイグル語保護活動を続けている）。

また、中国でウイグル族が直面している現実への理解と問題解決を訴え、当局の政策に批判的な声を上げた知識人、中央民族大学（北京）の著名なウイグル族経済学者、イリハム・トフティ准教授（Ilham Tohti, 伊力哈木・土赫提）が「国家分裂罪」に問われ、2014年9月23日、無期懲役判決で投獄された

(参考資料11)。

2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を発揮した**陳全国**が新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、**ウイグル語の使用禁止、漢語教育のみを実施という重大な人権侵害、同化・民族浄化政策を露骨に展開してきた**。これは陳の指示で設置した洗脳のための「再教育センター、強制収容所」や監視社会体制以外のもう一つ謀略である。

ウイグル語禁止政策は以下の各地方政府の通知・通達の内容から見取れる。

2017年7月5日、ホータン地区政府のホームページに、「ホータン地区双語教育規定5カ条、小中学校双語教育強化」(《和田地区制定双语教育五条规定, 加强中小学双语教育》(参考資料12))という規定を公表した。内容は(1) 国家通用言語文字(漢語)を全面普及し、民族言語を付加した双語教育原則を堅持すること、(2) 2017年秋学期から小学校入学前の3年で国家通用言語文字教育を徹底し、小学校1年、中学校1年から国家通用言語文字教学を全面实施、2020年には国家通用言語文字教学を全体的に実現すること、

(3) 漢語教師がウイグル語で研修受けるという間違ったやり方を止めること、

(4) 教育系統内、学校内でウイグル語文字、スローガン、図画などの使用を断固禁止すること、(5) 教育系統の集団活動、公共活動、管理ワークの中でウイグル語の使用を断固禁止すること。以上の双語教育政策に対しての怠慢、不履行、小細工などをした人は、「両面派」、「両面人」として厳重に懲罰される、であった。

そのほか、「ホータン地区学前(入学前)教師8カ条ルール」、「ホータン地区国語教育8カ条規定」などがある(参考資料13)。

2017年10月10日、イリ・カザフ自治州イニン県教育局が、自治区教育庁の

「少数民族文字教材補選使用に関する通知」(《关于少数民族文字教材教辅选用有关工作的通知》)を通達し、当県において、(1) 全てのウイグル語とカザフ語の「国語」教材の使用を停止すること、学校にすでにある教材は封存すること、(2) 国家統編の教材「道徳と法治」、「歴史」教材の少数民族文字に翻訳が終わっていないものを含め、使用を停止すること、(3) 関連学科少数民族文字の教材・補助資料の使用を停止すること、(4) この「通知」要求により、各学校が教材・補助教材選択・使用規定に違反してはいけない、問題発覚時はすぐ報告すること、という内容を公表した(参考資料14)。

ウイグル語使用禁止と同時にウイグル語教科書、文学・歴史に関する出版物の焼却が各地で行われた(参考資料15-16)。各地書店(新華書店)では、棚からウイグル語で出版された本が消えた。

**和田地区制定双语教育五条规定, 加强中小学双语教育**

07-05 00:54 和田地区 0 分享到

1 从零基础学汉语 4 学汉语从零基础 7 一对一汉语辅导 10 考研辅导班 13 英语托福学习  
2 英语听力 5 双语教育 8 少儿英语 11 三贵二贵辅导班 14 农村小教班  
3 新疆汉语 6 维吾尔语 9 留学中介 12 奥依博图 15 新疆净化

**一、依法坚持全面普及国家通用语言文字, 加授本民族语言的汉语教育根本原则。**

**二、坚定不移从2017年秋季学期开始, 学前三年全面实行国家通用语言文字教学, 从小学一年级起、初中一年级起全面推行国家通用语言文字教学, 到2020年实现国家通用语言文字教学全覆盖。**

**三、坚决纠正对汉语教师进行维吾尔语培训的错误做法。**

**四、坚决禁止在教育系统内、校园内使用只有维吾尔语的文字、标语和图片。**

**五、坚决禁止在教育系统集体活动、公共活动、管理工作中使用维吾尔语。**

凡对双语教育政策、原则不贯彻、不执行、不落实, 搞上有政策、下有对策, 搞阳奉阴违、当面一套、背后一套的, 一律按“两面派”对待, 按“两面人”予以严肃处理。





『参考資料』

1. 新井 凜子, 大谷 順子, 2016, 「新疆ウイグル自治区の漢語教育に見る言語とアイデンティティの関係」, 21世紀東アジア社会学 2016-第8号, 1-18.
2. リズワン・アブリミティ, 2009, 「中華人民共和国成立後の新疆における「民族学校」の漢語教育をめぐる一考察」『アジア・アフリカ言語文化研究』78, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 43-77
3. Mamtimyn S., Feng A. and Adamson, B., 2015, “Trilingualism and Uyghur Identity in the People’s Republic of China” in Evans, D. Eds., Language and Identity Discourse in the World. Bloomsbury.
4. Grose, T.A., 2010, “The Xinjiang Class: Education, Integration, and the Uyghurs” Journal of Muslim Minority Affairs Vol.30 No.1, The Institute of Muslim Minority Affairs, 97-109.
5. 王柯, 2006, 『20世紀中国の国家建設と「民族」』東京大学出版社
6. アナトラ・グリジャナティ, 2013, 「中国新疆ウイグル自治区における少数民族双語教育に関する研究」富士ゼロックス株式会社小林節太郎記念基金
7. リズワン・アブリミティ, 大谷順子, 2014, 「中国新疆におけるウイグル族の学校選択」『21世紀東アジア社会学』第6号, 日中社会学会, 156-171
8. 策勒县人民政府《2017 新疆和田地区策勒县双语教师招聘 1093 人公告》, 2017 年 4 月 26 日  
<http://www.offcn.com/jiaoshi/2017/0426/153572.html>
9. 《和田地区于田县面向内地招聘教师简章》2017.08.18  
<http://www.gzszyzx.com/client/article/1384>
10. ウイグル学校設立者 アブドワリ・アユップ [https://en.wikipedia.org/wiki/Abduweli\\_Ayup](https://en.wikipedia.org/wiki/Abduweli_Ayup)
11. ウイグル族経済学者、イリハム・トフティ准教授が「国家分裂罪」で投獄  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/イリハム・トフティ>
12. 《和田地区制定双语教育五条规定, 加强中小学双语教育》, ホータン地区ウェブサイトより  
<https://archive.is/nybWu>
13. 《新疆禁止幼教信教 教育系统内禁维语》, Radio Free Asia ウェブサイトより  
<https://www.rfa.org/mandarin/yataibaodao/shaoshuminzu/xl1-09252017102937.html>
14. 《RFA 独家: 新疆全面停用维、哈文字辅选教材》  
<https://www.rfa.org/mandarin/yataibaodao/shaoshuminzu/ql1-10132017100200.html>
15. 《新疆伊犁、和田等地收缴民族语言教科书》ChinaAid, 2018.04.02  
[http://www.chinaaid.net/2018/04/blog-post\\_2.html?m=1](http://www.chinaaid.net/2018/04/blog-post_2.html?m=1)
16. Thousands of Uighur Books burned by Chinese Authorities  
<http://unpo.org/article/101>

## 第六章 中国のウイグル文化・宗教への侵害状況

ウイグル人は、ユーラシア大陸のほぼ中央に位置し、シルクロードとも言われてきた東トルキスタン（現“新疆ウイグル自治区”）を中心に暮らす、独自の歴史と文化を持つイスラム教を信仰する人々である。

ウイグル人は、8～9世紀に約100年継続した「ウイグル可汗国」(Oghuz Orkhon Khanate)、9～13世紀に約300年繁栄した「天山ウイグル王国 (Uyghur Kingdom of Qocho, 天山山脈北麓)」と「カラ・ハン朝 (Kara-Khanids Dynasty, タリム盆地)」、16～17世紀に165年繁栄した「セイディア汗国」(Saidia Khanate, ヤルカンド)などを建国していた。

こうした独立のウイグル国家は18世紀から清朝の支配下におかれ、1884年に「新しい領土」を意味する「新疆」という名前が付けられた。それでも、ウイグルの反抗が途絶えず1933年と1944年に「東トルキスタン共和国」として独立国家を設立していた。しかし、1949年に再び中国人民解放軍の侵略により、共産党支配下に置かれ、1955年に「新疆ウイグル自治区」という名前が付けられた。自治区と称しながら実質的に自治権がない場所となった。

ウイグルは、かつて仏教やマニ教も信仰した歴史もあったが、8世紀からはずっとイスラム教を信仰してきた平和を愛する農耕民・遊牧民である。

ウイグルは、長い歴史の中でアジア、ヨーロッパ文化も吸収しながら、独自の言語（ウイグル語）や文化・習慣を培って、守ってきたのである。

ウイグルは、古代から音楽・踊りを生活の一部として、それを発展させながら、非常に明るく平和に暮らしていた。ウイグルの古典音楽「12ムカム」は歌、ダンス、音楽が一体となったもので、その素晴らしさが認められ、「世界無形文化遺産」に登録されたほどである。ウイグル人は中国で「能歌善舞」（歌も踊りも上手な）民族と呼ばれてきた。

ウイグルは、何千年もの歴史の中で、男性はヒゲを生やすのと伝統的な帽子をかぶり、女性はベールをかぶると肌脚を露出しないようにロングスカートを着るという習慣を作ってきた。

しかし、今現在、中国共産党の支配下にある、実際に全く「自治」のないこの「新疆ウイグル自治区」で何が起きているだろうか。

**中国でいま、ウイグルアイデンティティを破壊する重大な人権侵害、同化・民族浄化が行われているのだ！**

### 1. 【ウイグル文化への侵害】

1) ウイグルの男性（老人以外）は髭を生やすことが禁止されている。

<https://www.bbc.com/news/world-asia-china-39460538>

2) ウイグルの女性はベールやロングスカートを着用することが禁止されている。

新疆ウイグル自治区当局は昨年4月1日から、ひげや公共の場所での顔などを覆うベールの着用を禁じる新たな法律を発効した。

「新疆ウイグル自治区でひげやベール禁止、過激思想対策」（2017.04.01）

<https://www.cnn.co.jp/world/35099111.html>

China Uighurs: Xinjiang ban on long beards and veils

<https://www.bbc.com/news/world-asia-china-39460538>



- 3) 街の中で民族衣装、ワンピースや長めのシャツが強制的にカットされる。



これらの写真は、2018年7月13日ウルムチ市内で撮影され、WeChatに投稿されたもの

- 4) ウイグル学生に中華漢族衣装を着させ、孔子・漢族思想教育を強要されている。  
・ウイグルアイデンティティーの破壊・同化

<http://freedomsherald.org/ET/cmp/>



- 5) 伝統的ウイグル歌舞の代わりに中国漢族文化の戏剧を強要されている。

ウイグル音楽「十二ムカム」が世界無形文化遺産に登録されているなど、ウイグル音楽・舞踊が有名であり、ウイグル人は「能歌善舞」（歌も踊りも上手な）民族と呼ばれることがあるが、このような文化を漢族文化に置き換えようとしている。

- 6) ウイグル女性を漢民族の男性と強制結婚させられている。

<https://news.so-net.ne.jp/article/detail/1582964/>

<http://www.atimes.com/article/beijing-accused-of-forcing-uyghur-han-intermarriages/>

漢族の男性がウイグル族女性の親族を監禁して強要結婚……涙に濡れる花嫁の姿

[http://www.cyzo.com/2018/06/post\\_164302\\_entry.html](http://www.cyzo.com/2018/06/post_164302_entry.html)

Beijing accused of forcing Uyghur-Han intermarriages

<http://www.atimes.com/article/beijing-accused-of-forcing-uyghur-han-intermarriages/>



写真. ウイグル文化の破壊：ウイグル学生に漢族衣装



写真. ウイグル人女性を漢民族の男性と強制結婚

## 2. 【宗教への侵害】

### 1) モスクの閉鎖、モスクへ中国旗と監視カメラを設置

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/mosques-08032017153002.html>

<http://america.aljazeera.com/articles/2013/9/18/uyghurs-bow-downtochineseflagatxinjiangmosque.html>

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/urumqi-07072010084824.html>

<https://www.engadget.com/2018/02/22/china-xinjiang-surveillance-tech-spread/>

### 2) モスクに政府系監視系の職員を配置

Xinjiang Authorities Convert Uyghur Mosques Into Propaganda Centers

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/mosques-08032017153002.html>



写真. モスクへ中国旗・監視カメラ設置

3) 18歳以下の全員、学生、教師、職員の礼拝、断食など禁止

<https://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/asia/china/5794696/Chinese-authorities-ban-Uighurs-from-mosques.html>

[https://www.theepochtimes.com/communist-regime-bans-people-under-18-from-attending-mosques-in-xinjiang-china\\_1730829.html](https://www.theepochtimes.com/communist-regime-bans-people-under-18-from-attending-mosques-in-xinjiang-china_1730829.html)

4) モスクで行われて来たウイグル伝統的葬式に家族以外の人々の参加禁止

5) ウイグル人ボランティアの遺体清浄禁止

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/din/meyit-yuyghuchi-ayal-02192018135741.html?encoding=latin>

6) 当局管理下の遺体処理・葬儀場（葬儀サービスセンター）を設立

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/xitay-uyghur-miyit-ishlirigha-qol-tiqti-04062018235849.html?encoding=latin>

7) ウイグル人密集地に火葬場建設

ウルムチ沙依巴克区 火葬場保安員の公募

<https://m.wlmq.com/0010155185.html>



写真. ウイグル人密集地にできた葬儀場と火葬場

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06122018145148.html?encoding=latin>

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06132018153137.html?encoding=latin>

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06142018151310.html?encoding=latin>

8) 新生児にイスラム系の名前を付けることを禁止するほか、一部大人の名前の改名を強要

<https://www.voanews.com/a/china-issues-ban-on-many-muslim-names-in-xinjiang/3826118.html>

<https://www.telegraph.co.uk/news/2017/04/25/china-bans-islamic-baby-names-muslim-majority-xinjiang-province/>



写真. 新生児にイスラム系の名前を禁止

禁止された名前のリストは、例えば、サイプツラ、サイフディン（50年代から70年代後半まで新疆ウイグル自治区主席となった人の名前）、ナスルッラ、シャムシデンなどごく普通の名前も使用禁止となっている。

9) 収容所でウイグル人に豚肉とアルコールを強要

イスラム教徒に豚とアルコールを強要する中国・ウイグル「絶望」収容所

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/05/post-10194.php>

10) 500年の歴史あるモスクが突然消えた（破壊された）

ホータン・ケリヤ県にある500年の歴史を持つヘイティガー・ジャーミー（Keriye Heytgah Jamesi）も18年末に破壊されたことが、カナダの研究者 Shawn Zhang により衛星写真で発見された。

<https://twitter.com/shawnwzhang>



ラジオフリーアジア (RFA) , 2019 年 4 月 24 日

<https://uygview.rfaweb.org/uyghur/xewerler/meschit-cheqish-04242019163654.html?encoding=latin>

当局がモスク大量に破壊か 英メディアが衛星写真で実証、中国安全情報局, 2019 年 05 月 09 日

<http://www.alertchina.com/archives/17527417.html>

次々取り壊されるモスク、新疆で進むイスラム教の「中国化」, AFP 通信, 2019 年 6 月 15 日

<https://www.afpbb.com/articles/-/3229289>

Amazing China, 2019 年 4 月 24 日

<https://amazingchina.wordpress.com/2019/04/24/bulldozing-mosques/>

## 第七章 拘束されたウイグル人エリートたちのリスト

以下は現在ノルウェー在住のウイグル学者アブドワリ・アユップ氏がまとめた、2016年から強制収容所に入れられたウイグル人学者・エリートたちのリスト

### List of Uyghur intellectuals imprisoned in China from 2016 to the present

(Last up-dated by Abduweli Ayup on June15, 2019)

[https://shahit.biz/supp/list\\_003.pdf](https://shahit.biz/supp/list_003.pdf)

#### Medical Researchers and Doctors

1. Halmurat Ghopur, (M) Former rector of Xinjiang Medical University, head of XUAR Medical Oversight Bureau, physician, PhD
2. Abbas Eset, (M) Instructor at Xinjiang Medical University, physician, PhD
3. Nurmemet Emet (M) Head of Uyghur Traditional Medicine Dept., Xinjiang Medical University PhD
4. Enwer Tokhti, (M) Instructor at Uyghur Traditional Medicine Dept., Xinjiang Medical University
5. Alim Pettar, (M) Instructor at Xinjiang Medical University, physician, PhD
6. Perhat Bekhti, (M) Vice Rector of hospital attached to Xinjiang Medical University
7. Abduqeyum Tewekkul, (M) Physician, Kashgar Prefectural People's Hospital
8. Enwer Abdukérim, (M) Physician, Kashgar Prefectural People's Hospital
9. Husen Hesén (M) physician, Kucha Uyghur Medicine Hospital
10. Ebeydulla Hesén (M) physician, XUAR Uyghur Medicine Hospital
11. Tahir Hesén (M), physician, Kucha people's hospital
12. Nejibulla Ablat (M) cardiologist, Kashgar NO:2 people's Hospital.
13. Dolqun Tursun (M), XUAR Department of Preventive Medical.
14. Ilham Imam (M), ENT specialist, XUAR medical University hospital
15. Gulshen Abbas (F) doctor, XUAR Nurbagh Petroleum Hospital
16. Abdurehimjan Emet (M), physician XUAR Uyghur Medicine Hospital

#### University Professors

17. Erkin Abdurehim (Oghuz), (M) Professor, Kashgar University, retired
18. Metrèhim Haji, (M) Professor, Kashgar University
19. EnwerIsma'il, (M) Associate Professor, Kashgar University
20. EnwerQadir, (M) Associate Professor, Kashgar University
21. Abdukerem Paltu (M), Department of History, Kashgar University
22. Erkin Ömer, (M) Professor, Kashgar University, school principal
23. Mukhter Abdughopur, (M) professor, Kashgar University
24. Qurban Osman, (M) professors, Kashgar University
25. Ablajan Abduwaqi, (M) Professor, Kashgar University; chair, Mathematics Department
26. Rahile Dawut, (F) Professor, Xinjiang University; PhD
27. Arslan Abdulla, (M) Former dean, Philology Institute, Xinjiang University; Professor; Head of XUAR People's Government Cultural Advisors' Office

28. Abdukérím Rahman, (M) Professor, Xinjiang University
29. Gheyretjan Osman, (M) Professor, Xinjiang University
30. Tashpolat Táyip, (M) Professor, Xinjiang University; school principal
31. Alim Ehet, (M) professor, Xinjiang University; Developer of UyghurSoft software suite
32. Dilmurat Tursun, (M) professor, Xinjiang University
33. Batur Eysa, (M) professor, Xinjiang University
34. Abdurehim Mahmut, (M) professor, Xinjiang University
35. Erkin Imirbaqi, (M) professor, Xinjiang University
36. NurbiyeYadikar, (F) professor, Xinjiang University
37. Nebijan Hebibulla, (M) professor, Xinjiang University
38. Asiye Muhemmedsalih, (F) professor, Xinjiang University
39. Abdusalam Ablimit, (M) professor, computer center, Xinjiang University
40. Abdubesir Shükri, (M) Professor, Dean, Philology Institute, Xinjiang Normal University
41. Abduqadir Jalalidin, (M) Professor, Xinjiang Normal University; poet,
42. Jemile Saqi, (F) professor, Xinjiang Education Institute, PhD; wife of AbduqadirJalalidin
43. Yunus Ebeydulla , (M) Professor, Xinjiang Normal University
44. Ababekri Abdureshit, (M) professor, Xinjiang Normal University, PhD
45. Nur'eli Shahyaqup, (M) professor, Xinjiang Normal University, PhD
46. Nurmuhemmet Ömer (Uchqun), (M) professor, Xinjiang Normal University, PhD
47. Kamil Metrêhim, (M) Professor, Pedagogical Institute, Ürümchi Vocational University
48. Arzugül Tashpolat, (F) professor, Xinjiang Engineering Institute; Arrested together with husband EkremTursun
49. Zulpiqar Barat (Özbash), (M), professor, Xinjiang University; PhD
50. Nijat Ablimit, (M) professor, Kashgar University
51. Dilmurat Ghopur, (M) Vice Rector, Xinjiang University
52. Abdurêhim Rahman, (M) Associate Professor, Xinjiang University; PhD; husband of Ruqiye Osman
53. Ruqiye Osman, (F) Administrator, Xinjiang University Library; wife of Abdurêhim Rahman
54. Imam Muhemmet, (M), staff, the computer center of Xinjiang University.
55. Weli Barat, (M) Former president of Xinjiang University.
56. Mutellip Sidiq Qahiri (M) associate professor, Kashgar University.
57. Enwer Sidiq (M), Lecturer of physics, Xinjiang Normal University
58. Nijat Sopi, (M) Professor, Ili Teacher's College; PhD; Dean of Literature Department.
59. Barat Tursunbaqi, (M) Former president, Hotan Teachers College [Dazhuan]
60. Ablet Abdurishit (Berqi), (M) Associate Professor, Xinjiang Education Institute; PhD; poet
61. Khalmurat Eysajan, (M) professor, Ili Pedagogical Institute
62. Ömerjan Nuri, (M) professor, Hotan Teachers College [Dazhuan]
63. Azat Sultan, (M) Chairman of XUAR Literature and Arts Union; Chair, Xinjiang Writers Association; Professor; Literature expert
64. Gulazat Tursun (F) professor, Law school Xinjiang University, Human rights specialist.
65. Kerimjan Abdurehim (M), professor, poet, Kashgar Education Institute.
66. Adil Ghappar (M), professor, Xinjiang Normal University.
67. Juret Dolet (M), Director of Student Affair Office, Hotan Teacher's College High & middle School Teachers
68. Ablajan Memet, (M) Konisheher Number one High school.

69. Ehmetjan Jume (M), Konisheher Number one high school
70. Sajidigul Ayup (F) Konisheher Number one high school.
71. Abla Memet (M) former principal of Kucha NO:1 high school, reworded in 2017 in chemistry.
72. Niyaz Imin, (M) Former teacher, Kucha County NO:1 Middle School
73. Ekrem Islam, (M) Vice Principal, Sanji City NO:3 Middle School
74. Dilraba Kamil, (F) Instructor, Ürümchi 92 Middle School
75. Tursunjan Hézim, (M) Instructor, Aqsu 1 Middle School
76. Ablet Shemsi, (M) Instructor, Kucha County Ishkhala Village Middle School
77. Adil Tursun, (M) Vice Principal, senior teacher, Kashgar Old City County 1 Middle School; National-Level Expert
78. Shahip Abdusalam (Nurbeg), (M) Instructor, KelpinCounty 1 Middle School; poet
79. Zohre Niyaz (Sayramiye), (F) Instructor, Bay County Sayram Village Middle School; poet
80. TurdiTuniyaz, (M) Former Principal, Ürümchi City Experimental Middle School
81. AlimYawa, (M) Former instructor, Peyzawat County Güllük Village Middle School; poet
82. Ilham Tahir, (M) Teacher (fired), middle school attached to Kashgar Normal University; son of Tahir Talip

#### **Journalists, Editors and Publishers**

83. Ablikim Hesén, (M) Head of Uyghur Department and senior editor, Xinjiang Youth Press;
84. Yalqun Rozi, (M) Editor, Xinjiang Education Press,
85. Qadir Arslan, (M) Editor, Xinjiang Education Press
86. Mahibeder Mekhmut, (F) Editor, Xinjiang Education Press
87. Ayshem Peyzulla, (F) Editor, Xinjiang Education Press
88. Tahir Nasir, (M) Former head, former assistant head editor, Xinjiang Education Press; XUAR People's Government education inspector
89. Wahitjan Osman, (M) Editor, Xinjiang Education Press, poet
90. Erkin Muhemmet, (M) Editor, Xinjiang Education Press
91. Ekber Sirajidin, (M) Editor, Xinjiang Education Press
92. Yasin Zilal, (M) Head editor, "Tarim" Journal; poet
93. Abdurakhman Ebey, (M) Former chief, former senior editor, Xinjiang People's Press
94. Ekhmetjan Mömin (Tarimi), (M) Senior editor, Xinjiang People's Press, PhD
95. Qurban Mamut, (M) Former head editor, former senior editor, "Xinjiang Culture" Journal
96. IlhamWeli, (M) Chair, senior editor, "Xinjiang Gazette" Uyghur Editorial Department
97. Mirkamil Ablimit, (M) Vice Chair, senior editor, "Xinjiang Gazette" Uyghur Editorial Department
98. Memtimin Obul, (M) Editor, "Xinjiang Gazette" Uyghur Editorial Department
99. Jür'et Haji, (M) Editor, "Xinjiang Gazette" Uyghur Editorial Department
100. Erkin Tursun, (M) Editor, director, Ili Television Station
101. Abduréhim Abdulla, (M) Senior editor, Xinjiang Audiovisual Press; poet
102. Enwer Qutluq (Nezeri), (M) Editor, Xinjiang Television Station; poet
103. Qeyser Qéyum, (M) Editor in Chief, "Literary Translations" Journal Committed suicide. Jumped off eighth floor of his office building after a police summons rather than face probable detention in the camps.
104. Mirzahit Kérim, (M) Former editor (retired), Kashgar Uyghur Press; writer
105. Mehmütjan Khoja (Ümidwar), (M) Editor, "Xinjiang Youth" Journal; poet



106. Ablajan Siyit, (M) Vice head editor, senior editor, Kashgar Uyghur Press
107. Osman Zunun, (M) Former head editor, senior editor, Kashgar Uyghur Press, retired
108. Abliz Ömer, (M) Former head editor, senior editor, Kashgar Uyghur Press, retired
109. Osman Ehet (M) music editor, Qarluq electronic
110. Erkin Ibrahim (peyda) (M) publisher, CEO of ogen publishing company.
111. Chimen'gül Awut, (F) Senior editor, Kashgar Uyghur Publishers; poet
112. Tahir Talip, (M) senior editor, "Kashgar Daily," poet, public figure
113. Khalide Isra'il, (F) Editor, "Xinjiang Gazette," retired; writer
114. Méhriqül Tahir, (F) Instructor, Kashgar Preschool Teachers Training School; daughter of Tahir Talip
115. Abdurahman Abdurehim (M) Kashgar Uyghur press, editor
116. Memetjan Abliz Boriyar (M), Kashgar Uyghur Press, editor, writer
117. Memet Sidiq (M), Kashgar Uyghur Press
118. Anargul Hekim, (F), Kashgar Uyghur Press
119. Guzelnur Qasim (F), Kashgar Uyghur Press
120. Mahinur Hamut, (F) Kashgar Uyghur Press
121. Erkin Emet (M), Head of Kashgar Uyghur Press
122. Emrulla Enwer (M) Kashgar Uyghur Press

#### Poets, Writers and Scholars

123. Perhat Tursun, (M) Researcher, XUAR People's Arts Center; PhD; writer, poet
124. Abbas Muniyaz, (M) Professional writer, XUAR Writers' Association
125. Muhter Helil Bughra (M), Poet, XUAR TV Station
126. Idris Nurulla, (M) Independent translator, poet
127. Qasimjan Osman (Ghazi), (M) Civil servant, Peyzawat County Party Committee Propaganda Department; poet
128. YasinJanSadiq (choghlan) (M) writer, XUAR writer's association
129. Osman Hoshur (M), Writer, participant of Uyghur textbook.
130. Memet Emet chopani, Writer, poet
131. Ibrahim Alptekin (M) poet, publisher, Artush
132. AbduqadirJüme, (M) Independent translator, poet
133. Nezire Muhemmedsalih, (F) Independent writer; wife of AdiljanTuniyaz; daughter of MuhemmedsalihHajim
134. Muhemmedsalih Hajim, (M) Researcher, Nationalities Research Institute, Xinjiang Social Science Academy, retired; translator of the Quran into Uyghur; religious scholar and translator; died at age 84 in a camp; father of Nezire Muhemmedsalih
135. Memet'éliAbdurehim, (M) Former head of XUAR Language Committee, retired
136. Tahir Abduweli, (M) Researcher, XUAR Language Committee
137. Alimjan, (M) Researcher, XUAR Language Committee
138. Na'iljanTurghan, (M) Researcher, XUAR Language Committee
139. Kürresh Tahir, (M) Researcher, Xinjiang Social Sciences Academy; son of Tahir Talip
140. Abdurazaq Sayim, (M) Vice Head of Xinjiang Social Sciences Academy; senior researcher
141. Gheyret Abdurahman, (M) Researcher, Xinjiang Social Sciences Academy; Vice Head, Language Institute, Xinjiang Social Sciences Academy

142. Abduqéyum Mijit, (M) Researcher, Ethnic Culture Research Institute, Xinjiang Social Sciences Academy
143. Sajide Tursun, (F) Postdoctoral researcher at Max Planck Institute for the Study of Religious Diversity in Gottingen, Germany
144. Abbas Burhan, (M) Researcher, XUAR Education Department; Vice Principal, Ürümqi, Number 10 Elementary School
145. Ablimit, (M), Independent researcher of Uyghur classical literature; PhD
146. Gulbahar Eziz, Writer, Poet, Lawyer.
147. AdiljanTuniyaz, (M) Former staff, Xinjiang People's Radio Station; poet; husband of Nezire Muhemmedsalih
148. Dilmurat Tursun (M) researcher, Urumchi Municipal education department,
149. Adil Rishit (M) researcher, XUAR Educational Press
150. Tursunjan Muhemmet Marshal, website editor, Writer
151. Tursunbeg Yasin (M), Blogger, writer
152. Tuniyaz Osman (M), writer, former Judge, Aksu seismology Deparmet.
153. Omerjan Hesén (Bozqir) writer, Translator, Blogger, Aksu Forestry Department

#### **Actors, Directors, Hosts, Hostess, Singers**

154. Mekhmutjan Sidiq, (M) Director, Xinjiang Television Station
155. Ekhmetjan Metrozi, (M) Technician, Xinjiang Television Station
156. Qeyum Muhemmet, (M) Associate Professor, Xinjiang Art Institute; actor; host ; husband of Aynur Tash
157. Aynur Tash, (F) Ürümchi People's Radio Station, retired for health reasons; wife of QéyumMuhemmet
158. Erkin Tursun, (M) Editor, director, Ili Television Station
159. Es'et Éziz, (M) Chief, Ürümchi People's Radio Station Uyghur Editorial Department
160. Abdushukur Wahit (M), film editor, Urumqi Sezgu Advertisement company.
161. Abdurehim Heyit (M) singer XUAR Theater
162. Zulpiqar Koresh (M) host, XUAR TV station
163. Reshide Dawut (F) singer, XUAR theater
164. Adil Mijit (M) comedian, XUAR Theater
165. Senuber Tursun (F) singer, XUAR theater
166. Aytilla Ela (F), singer, XUAR Theater
167. Ablet Zeydin (M) XUAR TV station, editor
168. Peride Mamut (M), singer, actor, Karamay Theater
169. Zahirshah Ablimit (M), singer
170. Ablajan Awut Ayup (M), singer, “Uyghur Justin Baber”
171. Memetjan Abduqadir (M) singer, actor
172. Mahire Yusup (F) singer, Urumchi Song and Dance Troup
173. Adiljan Hamut (M) Cameraman, Xinjiang Izgil Film & TV compay

#### **Computer Engineers**

174. Qeyser Abdukerim (M), computer engineer, poet.
175. Metyasin Metqurban (M) Bilkan electronic company, CEO, computer engineer

176. Perhat Zahir (M) computer engineer
177. Abdurahman Memetabla (M) computer engineer, CEO, Rawanyol electronic company.
178. Nurshat (M) Graphic designer, Qarluq Electronic Company
179. Abletjan Ismail (M), Creator of Yaltapan software, IT engineer of XUAR Government website ts.cn,
180. Sirajidin Qarluq (M), Qarluq electronic, co, ltd,
181. Amannisa Qemirdin (F) accountant, Qarluq Electronic Company.
182. Reyhangul Mehmud (F) graphic designer, Qarluq electronic
183. Yusup Emet (M) graphic designer, Qarluq electronic
184. Emetjan, (M) Qutlan Electronic Company, computer engineer
185. Mukhtar Rozi, (M) Computer expert; programmer
186. Ekber Eset (M) Website designer, CEO, Bagdax electronic
187. Dilshat Perhat (Ataman), (M) Founder, "Diyarim" Website

### **Photographers and Painters**

188. Nijat Memtimin, (M) Employee, Kashgar Prefectural Government Information Office; photographer
189. Mutellipjan Memtimin, (M) Owner, "Kashgar White Steed Photo Studio"; photographer
190. Ablikimjan (M), designer, Kashgar Preschool Teachers School Other intellectuals
191. Ablimit Ablikim, (M) MA student, Shanghai Arts Institute
192. Arzugül Abdurehim, (F) Received MA in Japan
193. Abdurishit Imin (M) XUAR Department of Agriculture
194. Gülbahar Éziz, (F) Civil servant, XUAR Prison Administration Office; psychology

### **Counselor; Lawyer**

195. Ghalip Qurban, (M) vice chief, Urumchi municipal court, Judge.
196. Ekber Ebeydulla (M) Kashagr Cultural Heritage Protecting Departmen.
197. Ebeydulla Ibrahim (M) Writer, Editor in Chief, Xinjiang Youth,
198. Mihray Mijit (F), Principle of #20 Primary School, Editor of Uyghur Textbook. Supplement: imprisoned intellectuals from other Turkic ethnic groups in Xinjiang
199. Qabilqan Sadiq, (M) Editor, Xinjiang Education Press; Kazakh
200. Esqer Junus, (M) Researcher, Xinjiang Social Sciences Academy; Kyrgyz
201. HörmetjanAbdurahman (Fikret), (M) Professor, Xinjiang University; Uzbek
202. MambetTurdi, (M) Professor, Xinjiang Normal University; literary critic; Kyrgyz
203. Abdurahman Eziz (M) Writer, Ermudun, Yengisheher, Kashgar, Kyrgyz
204. Dina Igemberdi (F) Painter, Urumqi Tianshan District, Tuanjielu, No 78. Kazakh
205. Nurbaqit Qadir (M), editor, Xinjiang Education Press. Kazakh
206. Maqadas Aqan (M), editor, Xinjiang Education Press. Kazakh

### **Other Intellectuals**

207. Turnan Qasim (M), CCP XUAR regional committee, propaganda branch
208. Jelil Abdurahman (M), Urumqi Education Department
209. Hamut Yasin (M), Xinjiang Education Press
210. Abduqeyum Tohtaji (M), Xinjiang Experiment High school
211. Aygul Imin (F), Teaching & Study office of Tianshan District, Urumqi Education Department.

212. Mahire Rozi (F), teacher, Urumqi 16# High School,
213. Abdusalam Turdi (M), professor, Department of Physics, Xinjiang Normal University
214. Enwer Sidiq (M), professor, Department of Physics, Xinjiang Normal University
215. Ghalip Nasir (M), Administration Office, Xinjiang Normal University
216. Rena Mamut (M), Library, Xinjiang Normal University
217. Umit (M) Affiliated High School of Xinjiang Normal University.
218. Rizwangul (F) Affiliated High School of Xinjiang Normal University.
219. Eysa Qadir (M), professor, Xinjiang Agriculture University
220. Ababekri Ablet (M), president of Hotan Teachers College
221. Memetrishat Zunun (M), Xinjiang Huan Tourism Co.ltd
222. Gheyret Eysa (M), Kashgar 10# High School, publisher
223. Dawut Obulqasim (M), Koknur biotechnology Co.ltd
224. Buhelchem Tursun (F), former official of Urumqi Import and Export Department
225. Telet Qadiri (M), Uyghur textbook for grade 8 editor, Xinjiang education Press.
226. Hamutjan Hekim (M), Uyghur textbook for Grade 8 editor, Xinjiang education Press
227. Shirmuhemmet Jarup (M) Uyghur textbook editor, Xinjiang Education Press
228. Perhat Kazim (M) Uyghur textbook editor, Uyghur textbook editor
229. Eysajan Turdi Achchiq (M), Uyghur textbook for Grade 8 editor
230. Muqeddes Mirza (F), Uyghur textbook for Grade 8 editor
231. Enwer Omer (M), Uyghur textbook for Grade 8 editor
232. Hebibulla Eli (M), Uyghur textbook for Grade 8 editor
233. Adiljan Ayit (M), Uyghur Textbook painter, XUAR Education Press.
234. Abdurehim Osman (M), Kashgar CCP local branch vice chairman of religious and ethnic affair
235. Shemsidin (M), physician, XUAR Number 2 Hospital
236. Zamanidin Pakzat (M), poet, instructor, Preschool teachers college
237. Gulchihre Chongelem Eziz (F), writer 241. Ablikim Kelkun (M) comedian, XUAR Theater
238. Hebibulla Tohti (M), professor, Xinjiang Islamic Institute, PhD.
239. Adil Hajim (M), professor, Xinjiang Islamic Institute
240. Yusupjan Zeynidin (M), former professor, Xinjiang Islamic Institute
241. Muhemmet Abdulla (M), former professor, Xinjiang Islamic institute
242. Abduqahar damolla (M), professor, Xinjiang Islamic Institute
243. Ilyas Qarihazi (M), professor, Xinjiang Islamic Institute, PhD
244. Shahabidin Hajim (M), professor, Xinjiang Islamic Institute
245. Abduqahar Damolla (M), professor, Xinjiang Islamic Institute
246. Abdusemi Damolla (M), instructor, Artuch Islamic School
247. Abliz Qarihazi (Arqan) (M), writer, religious scholar.
248. Abduhaliq Damolla (M), instructor, Aqsu Islamic School
249. Azat Eziz (M), professor, former principle, Kashagr University
250. Gulzar Ghenni (F), Kashgar University
251. Abduqeyum Yasin (M), physician, Kashagar #1People's hospital
252. Dilshat Alim (M), physician, XUAR Number2 people's hospital.
253. Mirzat Osman (M), 32 years old. Bachelor of Xinjiang Agricultural University, studied in Italy, missing since 2017
254. Yasinjan Tohti (M), pharmacist, Kashgar Uyghur Medicine Hospital

255. Buwejer Memeteli, (M), teacher, Kashgar Number10 Primary School
256. Adil Eliyof, (M) retired accounted from People's Bank Kashgar Branch,
257. Erkinjan Abdukerim (M), primary school teacher in Awat Township Kashagr, he died after released from reeducation camp on September 30th, 2018.
258. Nurmemet Tohti (M) 32 years old, Xinjiang ElQUWET co.ltd.
259. Kamalidin (M), professor, Xinjiang Financial & Economy University PhD.
260. Alishir Qurban (M), associated professor, Xinjiang institute of ecology and geography, Chinese science academy.
261. Huseyinjan Esqer (M), researcher, Language committee of XUAR.
262. Erkizat Barat (M), writer, website editor, activist, graduated Zhongnan Financial University, Poskam, Xinjing (aka East Turkestan)
263. Hesenjan Abdulla (M), Researcher,Ili institute of Agricultural study, Ili Kazakh Autonomous Prefecture, detained April 2017
264. Hisamidin Eziz (M), Poet, Xinjiang Representative Office in Beijing, detained in June 2018
265. Abdulkahar Tursun (M), Arcelik Electronic engineer, graduated Middle East Technology University, detained 2017.
266. Turghun Asim (M), 45 years old, water engineer, Kashgar city water administration department, detained in concentration in 2018.
267. Memtili Wahap (M), 40 years old, Kashagr city Water Administration department
268. Nurmemet Niyaz (M) 30 years old, Kashagr city Water Administration department
269. Ekber Emet (M) 37 years old, Kashagr city Water Administration department
270. Abdughopur Tursun (M), 54 years old, Kashagr city Water Administration Department
271. Sabirjan Hamut (M) 48 years old, Kashagr city Water Administration Department
272. Memetjan Rozi (M), born in 1979, Graphic Designer & Film Editor, detained September 5th, 2017
273. Kamal Abliz (M), born in 1979, film maker and producer, he directed there is no way for these kids, detained June 9th 2017, Dolan Co.ltd.
274. Semi Kirem (M), Babahan Food & Logistic Company, detained in Midong detention Center since August 15th
275. Tahir Qasim (M), writer, poet, professor, Aqsu Educational Institute
276. Abdusalam Jalalidin (M), professor, PhD, born in 1962 Ghulja, Xinjiang University
277. Hemdulla Abdurahman (M) Linguist, born in Pichan 1957, Languages committee of Xinjiang Uyghur Autonomous Region
278. Nizamidin Niyaz (M), PhD, Lecturer of Xinjiang Normal University, sentenced for 15 years for participating problematic textbook.
279. Tursunjan Behti (M), PhD, Linguist, born in 1985, lecturer of Xinjiang financial and Economy University.
280. Rahmanjan Awut Ozhal (M), Poet, Singer, Song writer, XUAR Theater.
281. Eysabeg Mamut (M), well-known folksinger, h sentenced 10 years, accused of illegal religious activity.
282. Waris Ababekri (M), one of the former leaders of the 1988 Uyghur students' movement, writer, film producer, Xinjiang Dolan Co.ltd
283. Osman Kerem (M), born in 1961, former teacher of Urumchi number 23 middle school.
284. Kurban Aji, (M), 61 years old (born on March 1st, 1958 Artush). He has taught in high schools for 35 years, Artuch Number 4 high school

285. Abduhelil Ela (M), Surgeon, Tuberculosis Hospital of Xinjiang Uyghur Autonomous Region, detained in January 2018.
286. Zohre Ela (F) Technician, Karamay Petroleum Company which cooperated with Hong Kong, detained in January 2018.
287. Juret Memet (M), teacher, vice president of regional educational department of Karamay.
288. Rishat (M), teacher, Number 4 primary school in Karamay
289. Adil Yaqup (M) poet, Vice Chief of Number three Detention Center, detained March 2018.
290. Memtimin Hoshur (M), Writer, Former Head of XUAR Writers Association
291. Ehtem Omer (M) Writer, employee of state owned XUAR Film making company
292. Reyhangul (F) Uyghur Medicine Hospital of Xinjiang Uyghur Autonomous Region in Urumchi city.
293. Juret Qurban (M), born in 1986, Xijiang Zamzambolaq International Trade Co.ltd, detained in October 2017.
294. Jumaji Juma (M) Teacher, Qulanchi Primary School, Azaq Township, Artuch, detained and sentenced to 7 years, because of sending a gift to Turkey.
295. Marat Isaqow (M), born in 1982 Urumchi, Teacher, Urumchi Number 14 High School, studied in Kazan, Tatarestan federal republic, Tatar
296. Sewirdin Imam (M) Host, Actor, arrested in January 2019, He is in Tie Chang Gou, Michuan
297. Semi Kirem (M), arrested in August 15th, 2018, Xinjiang BABAHAN Food Company.
298. Abduqeyum Imin (M), actor, editor, Xinjiang TV, (State owned Xinjiang Uyghur Autonomous regional propaganda organization)
299. Hezereteli Memettyrsun (M) Singer, public figure
300. Bupatem (F) secretary of Hotan county level court
301. Abdurahman (M), Hotan county local branch of CCP commission for discipline inspection
302. Husenjan (M), Musician, music teacher Hotan city number 2 primary school
303. Arapat Erkin (M) student, Kocaeli University, kept missing since 2017 went back to China
304. Mirzat Osman (M), student, studied in Milan, Kept missing since October 2017 went back to China
305. Omerjan (M) architect, Uyghur style architectures designer, entrepreneur, public figure
306. 310. Yasin Kerim (M), Calligrapher, awarded international several Calligraphy competitions, Yengi Eriq township, Hotan. <https://instagram.com/uycalligrapher?igshid=1xoek3v9lwm0x>
307. Niyaz Kerim Sherqi (M) Calligrapher, topographer, toponymist, professor of former Xinjiang University of Industry
308. Abdureshit Eli (M), Pen name (tundiki adem), poet, editor of Yengi Qashteshi (seasonal literature magazine).
309. Abdukerim Yaqup (M), Public figure, the people's government of Xinjiang Uyghur Autonomous region Beijing Office
310. Ehet Sayit (M) Public Figure, County Mayor of Yarkent, Xinjiang Uyghur Autonomous Region
311. Abdugheni Jume (M) Public Figure, County Mayor of Merkit, XUAR
312. Ghali Rahman (M) Public Figure, County Mayor of Peyzawat, XUAR
313. Memettrusun (M) Public Figure, Kashagr Prefectural Foreign affair Office .
314. Gholamjan Ghopur (M), English teacher, the founder of Tewpiq Language and Technology Training school.
315. Abdumijit Abduqadir (M), Instructor, Xinjiang Uyghur Medicine College, PhD candidate of Chinese Science Academy Xinjiang Branch.
316. Enwer Niyaz (M), Teacher, Principle of Toqsun County Number1 High School, Head of Toqsun

County Education Department.

- 317. Shohret (M) Instructor, Xinjiang Normal University, TsingHua University PhD Candidate.
- 318. Qelbinur Hamut (F), Teacher, Number 19 Primary School, one of the editors of Uyghur textbook, retired in 2015, arrested in 2017.
- 319. Abdurehim Ablethan (M) writer, film maker, Jigde Quduq Village, Qomul
- 320. Turkizat Gheyret (M) Student Activist, Xinjiang Finance and Economy University
- 321. Musajan Imir (M) Entrepreneur, Xinjiang Qaraqum International Trade Company

Notes:

- 1. This list is composed of Uyghur intellectuals whose imprisonment has been confirmed by the Uyghur Diasporas. The imprisonment of some individuals on the list has been investigated by Radio Free Asia; the imprisonment of the other intellectuals listed here has been confirmed by other reliable sources in China and some relatives of detainees in Diasporas.
- 2. While considerable care has been taking in compiling and checking the list, obstacles have nonetheless been considerable, given the information blockade imposed on Xinjiang (Eastern Turkistan) by the Chinese government. As a result, there may be errors in the list. We ask readers' help in correcting any such issues, compiling further information on the individuals listed here in, and adding other detained intellectuals to the list.
- 3. It is clear that the number of detained intellectuals greatly exceeds the number listed here. This list—and other lists of detained individuals will be continually revised and expanded.
- 4. In January 9th, the order are reorganized, after this time the order will be the same, if I add some individuals they should under the “Other intellectuals”
- 5. 176 Nurshat Mijit and 21 Gulnar Obul released. 236. Jewlan Jelil is confirmed not in detention; Adiljan Ayit was arrested because of Uyghur textbook issue.

Note2: Nurshat Mijit released January 18, but is unknown where he is.

Note 3. Ablajan Abduwaqi and Sajide Tursun are released recently.

Note4: Adil Yaqup was released in the first week of April

Note5: Adil Eliyof released in March 2019.

Note6: Abbas Eset, Arzugul Tashpolat were released recently

Note 7: Muhter Bughra, Eysabeg Mamut were released recently

Note8: Qurban Aji, No.289 was released in June 2019

(Last up-dated by Abduweli Ayup June15, 2019), if you need more information please feel free to contact Abduweli Ayup, yanmaymiz@gmail.com